

使い方の手びき

MY LOCK・4D

〔234D型〕

ご使用前に、この取扱説明書を十分、お読み下さい。

この取扱説明書はお使いになる方が、いつでも見られるところに保管して下さい。

安全にご使用いただくために

このミシンを、安全にご使用していただくために、以下のことがらを守って下さい。

このミシンは、日本国内向け、家庭用です。FOR USE IN JAPAN ONLY



警告 感電、火災の恐れがあります

1. 一般家庭用交流電源100Vでご使用下さい。
2. 以下のような時は、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いて下さい。
 - ・ミシンのそばを離れるとき
 - ・ミシンを使用したあと
 - ・ミシン使用中に停電したとき



注意 感電、火災、けがの原因となります

1. フットコントローラーの上に物を乗せないで下さい。
2. お客様自身での分解、改造はしないで下さい。
3. ミシンの操作時は、ルーパーカバー、布カバーなどのカバー類を閉じて下さい。
4. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、ルーパー、メス、はずみ車、天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないで下さい。

5. 曲がった針はご使用にならないで下さい。
6. 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないで下さい。
7. お子様のご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意して下さい。
8. 以下のことをするときは、電源スイッチを切って下さい。
 - ・針、針板、押え、アタッチメント、メスを交換するとき
 - ・針糸、ルーパー糸をセットするとき
 - ・ランプを交換するとき(ランプが冷えてから行って下さい)
 - ・取扱説明書に記載のあるお手入れを行うとき
9. ミシン、フットコントローラーに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お近くの販売店にて点検、修理、調整をお受け下さい。
 - ・正常に作動しないとき
 - ・落下などにより破損したとき
 - ・水に濡れたとき
 - ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき
 - ・異常な臭い、音がするとき

目次

準備

●各部の名まえ	4
●標準付属品	5
●ダストボックス	5
●物入れケース	5
●電源をつなぎましょう	6
●速さの調節のし方	6
●はずみ車の回転方向	7
●布板のあげ方、しめ方	7
●ルーパーカバーのあげ方、しめ方	7
●糸掛けスタンドの位置決め	8
●糸こま押え、糸こまネットのつけ方	8
●針のとりかえ方	9
●押えのあげ方、さげ方	9
●押えのはずし方、つけ方	10
●糸の通し方	11~19
★下ルーパー糸の通し方	12~13
★上ルーパー糸の通し方	14~15
★右針糸の通し方	16~17
★左針糸の通し方	18~19

ふちかがり縫い

●試し縫いをしましょう	20
★縫いはじめ	20
★縫いおわり	20
★つづけて縫うとき	20
●ほつれ止めのし方	21~22
●糸調子の出し方(2本針4本糸)	23~25
★糸調子器	23
★正しい糸調子	23
★糸調子の目安	23
★糸調子の調節のし方	24~25
●糸調子の出し方(1本針3本糸)	26~27
★右針を使うときの糸の通し方 (かがり幅3.5mm)	26
★左針を使うときの糸の通し方 (かがり幅5.7mm)	26
★正しい糸調子	26
★糸調子の調節のし方	27
●布に適した糸や針を選ぶ目安 《ふちかがり縫い》	28

●縫い目粗さの調節のし方	29
●縫い目伸縮の調節のし方	29~30
●押え圧力の調節	31
●上メスの解除	31
●上メスのもどし方	31
●針板の種類	32
●針板の交換	32

応用縫い

●巻き縫い、ピコ縫い、細ロック縫い	33~35
●縁飾り縫い	36
●ピンタック	37
●ギャザーよせ	38

ミシンの調整と手入れ

●上メスの交換	39
●切りくずの掃除	40
●送り歯の掃除	40
●電球のとりかえ方	41
●注油のし方	42
●調子がよくないときの直し方	43

●おとり扱いについてのお願い

★より安全のために……

- ①ミシンを動かしているとき、針から目をはなさないように注意し、はずみ車、メス、針などに手を触れないでください。
- ②つぎのようなときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
 - 使用後
 - ミシンのそばをはなれるとき
 - 部品をつけたり、はずしたりするとき
 - ミシンの手入れをするとき
- ③コントローラーの上には物をのせないでください。
- ④たこ足配線は、危険ですからやめましょう。

★ご使用前に…

- ①ほこりや油などで布を汚さないように、使う前にミシンをよくふいてください。
- ②ミシンのセットや、針板、メス、針を交換するときには、この《使い方の手びき》を見て、正しく、確実にセットしてください。
- ③ミシンをセットしたら、ルーパーカバーと布板が確実にしめてあることを確認し、実際に縫うものと同じ布や糸でためし縫いを試みましょう。

★いつまでもご愛用いただくために……

- ①ほこりや油などの汚れは、水をつけずに、乾いたやわらかい布でふきとります。
*シンナー、ベンジン、みがき粉は絶対に使用しないでください。
- ②長時間日光にあてたり、ストーブのそばに置いたりしないでください。
- ③湿気の多いところはさけてください。
- ④落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

●修理、調整についてのご案内

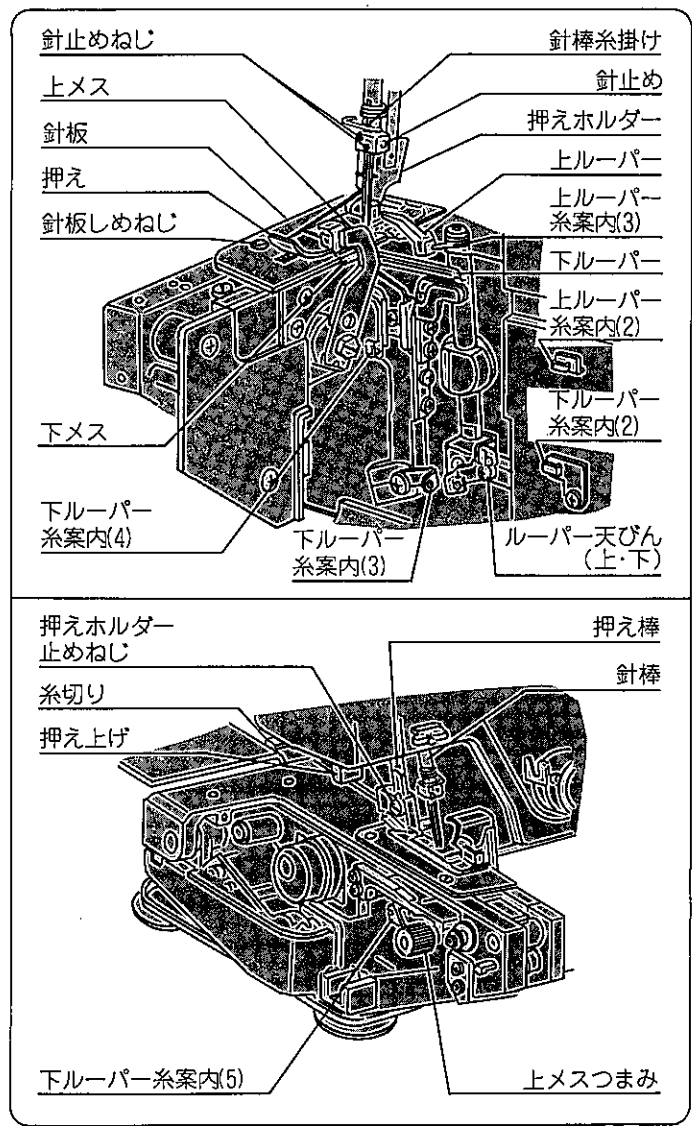
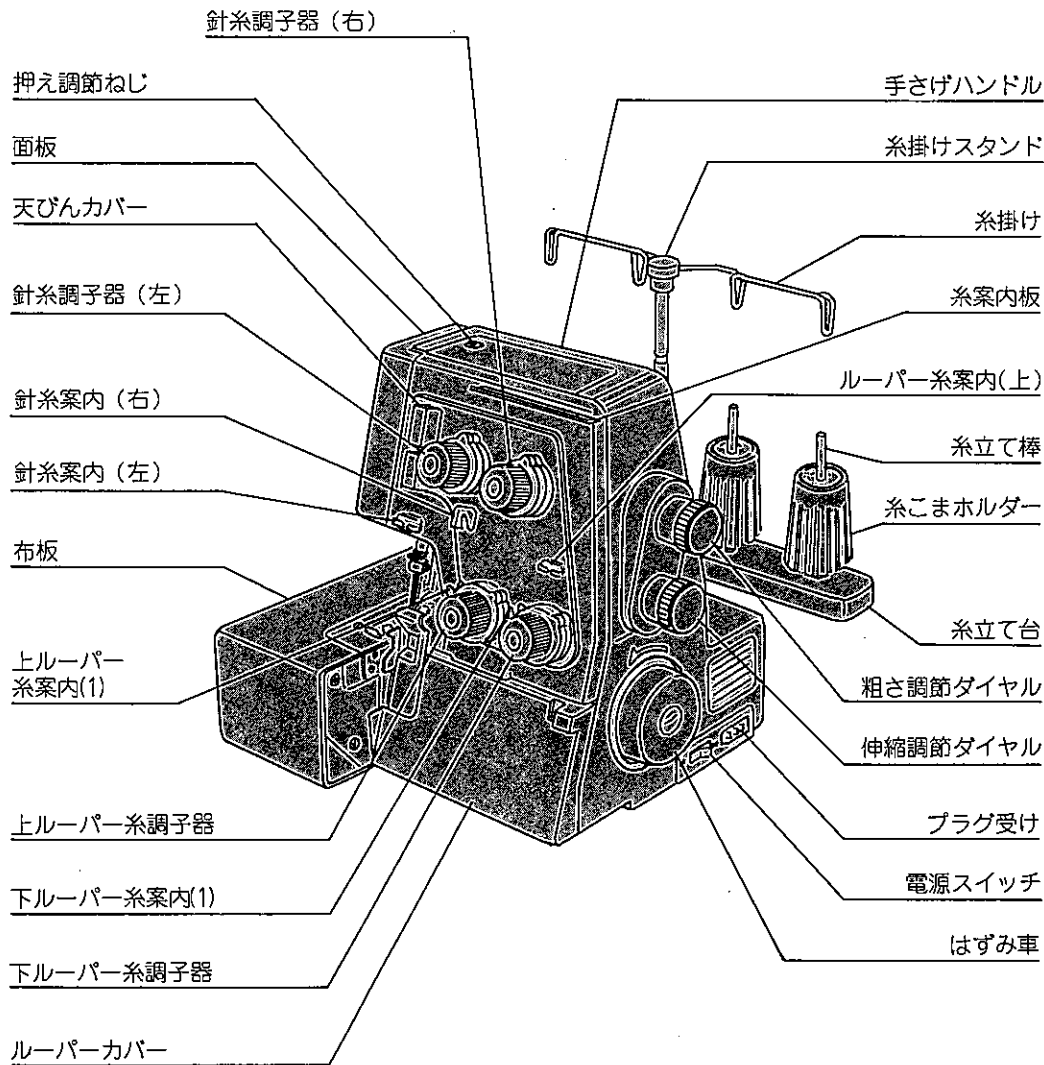
万一不調になったり、故障を生じたときは、「調子がよくないときの直し方」(43ページ参照)により点検・調整を行なってください。それでも調子が悪いときは、お買い上げいただいた支店、または近くの支店へご連絡ください。

●このミシンは、日本国内用に作られていますので、外国では使用できません。

(This sewing machine can not be used in foreign country as designed for Japan only.)

仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

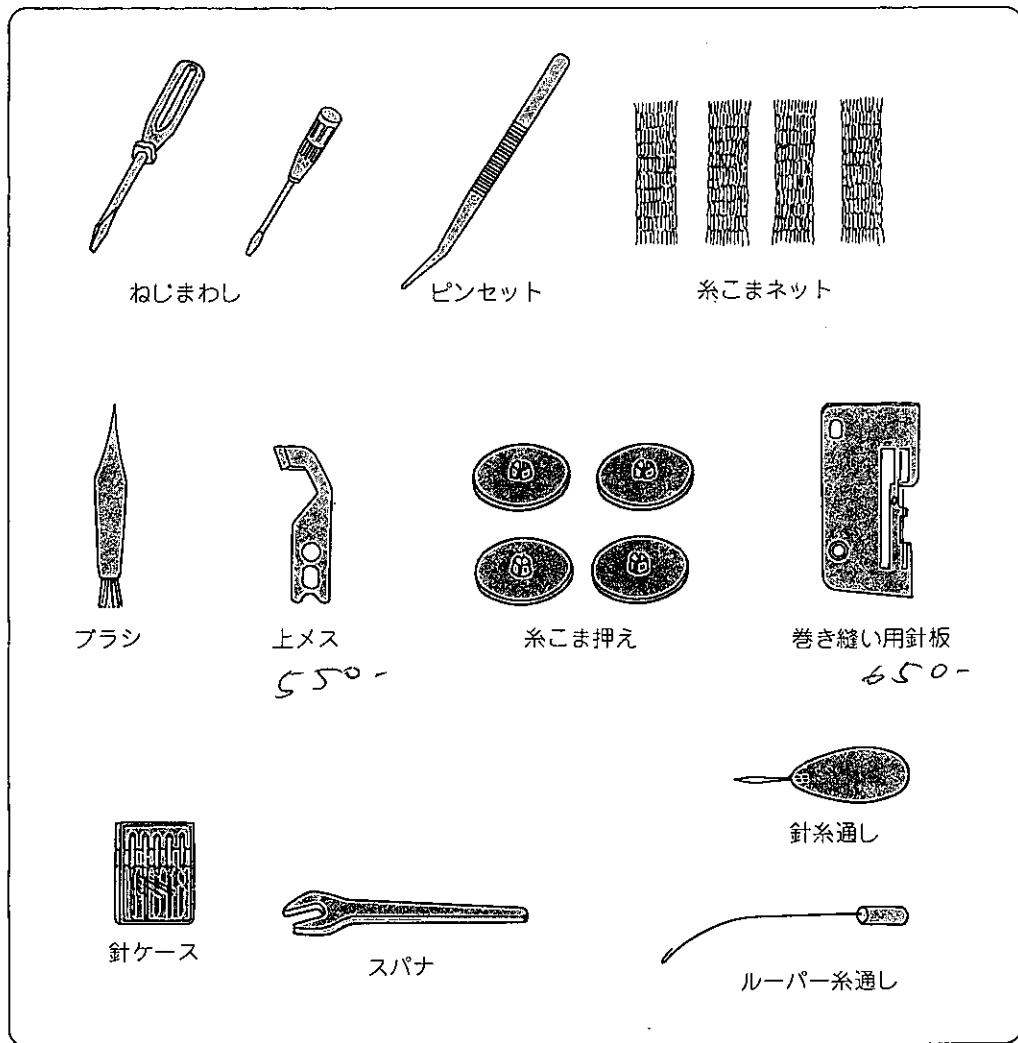
●各部の名まえ



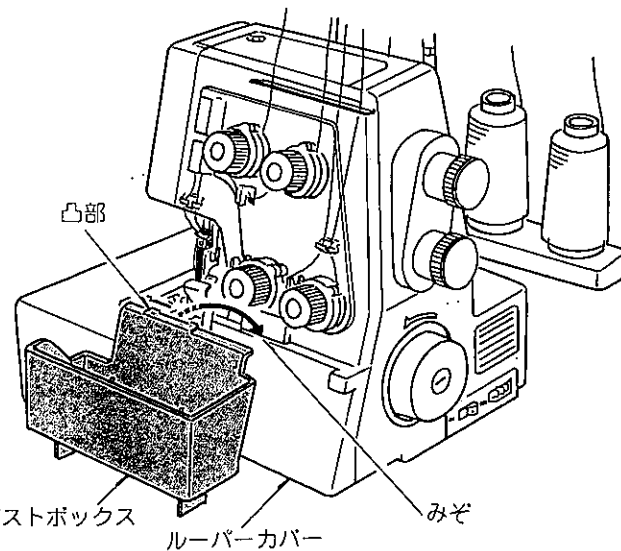
準

備

●標準付属品

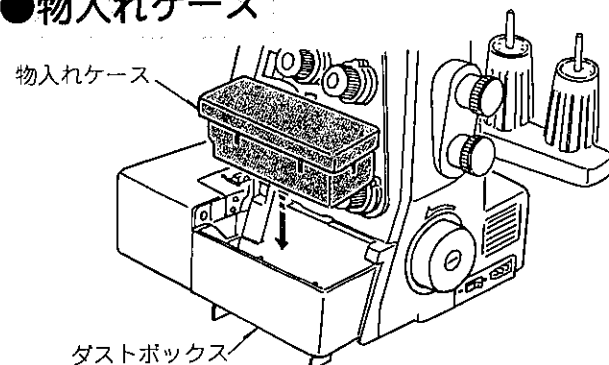


●ダストボックス



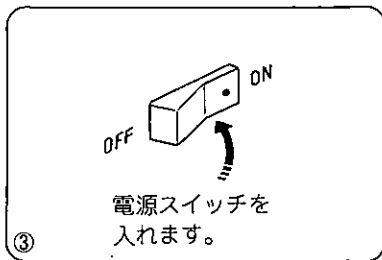
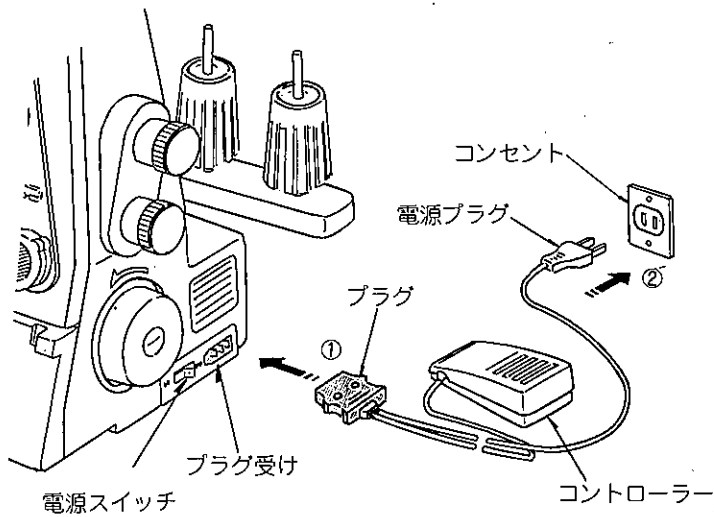
○つけるときは、ルーパーカバーのみぞにダストボックスの凸部を上から合わせてのせ、軽く押しつけます。
○はずすときは、持ちあげます。

●物入れケース



○つけるときは、ダストボックスに物入れケースをおさめます。
○はずすときは、物入れケースを持ちあげます。

●電源をつなぎましょう



①電源スイッチを「OFF」にして、プラグをプラグ受けにさしこみます。

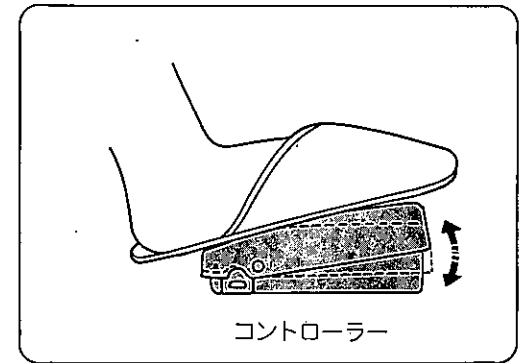
②電源プラグをコンセントにさしこみます。

③スイッチを「ON」にします。

*電源は、一般家庭用(100V 50/60Hz)です。

*ミシンを使わないときは、電源プラグを抜いてください。

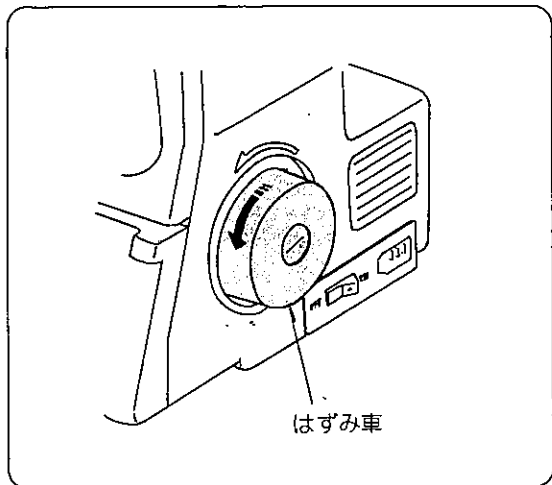
●速さの調節の仕方



ミシンの速さは、コントローラーで調節します。

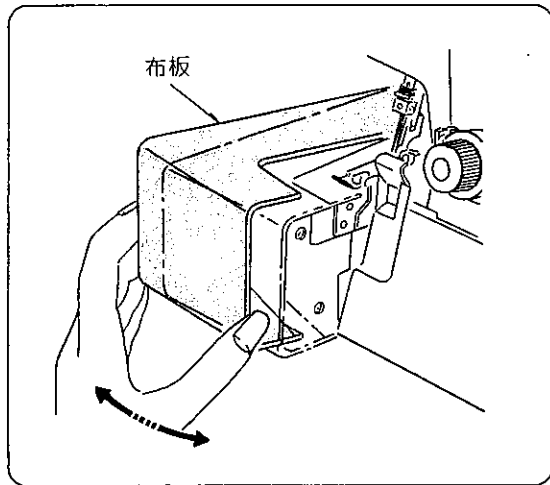
○コントローラーは、深く踏みこむほど、速くなります。

●はずみ車の回転方向



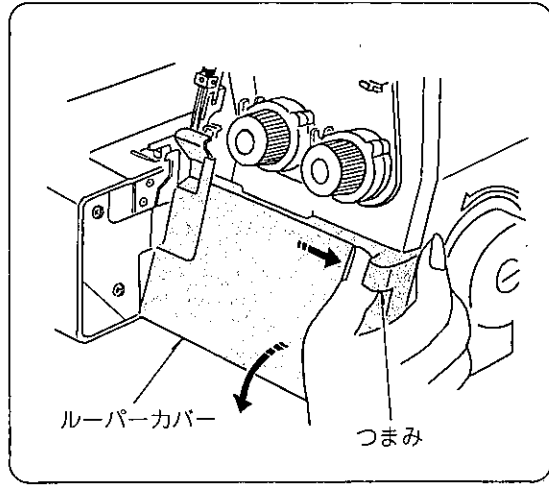
○はずみ車は、手前にまわします。
反対方向にまわすと、糸がからんで縫え
なくなります。

●布板のあけ方、しめ方



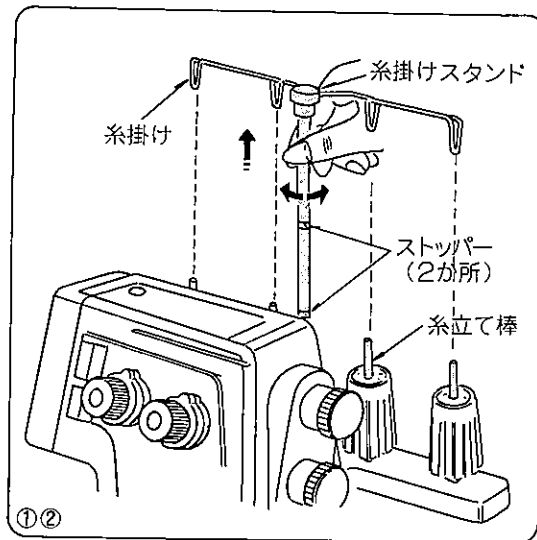
★あけ方
左へ押してあけます。
★しめ方
右へ押してしめます。

●ルーパーカバーのあけ方、しめ方



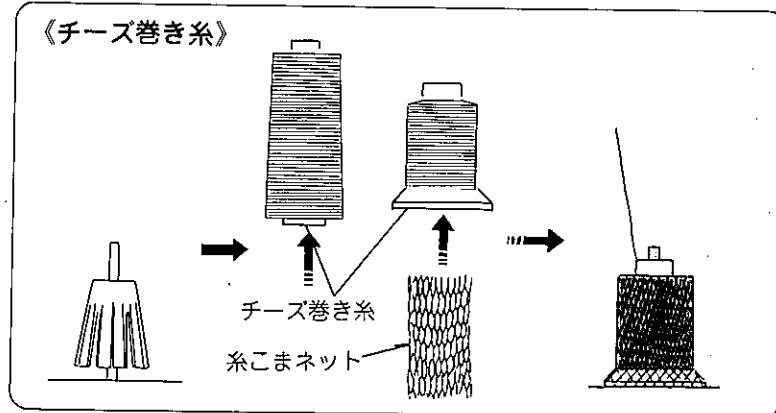
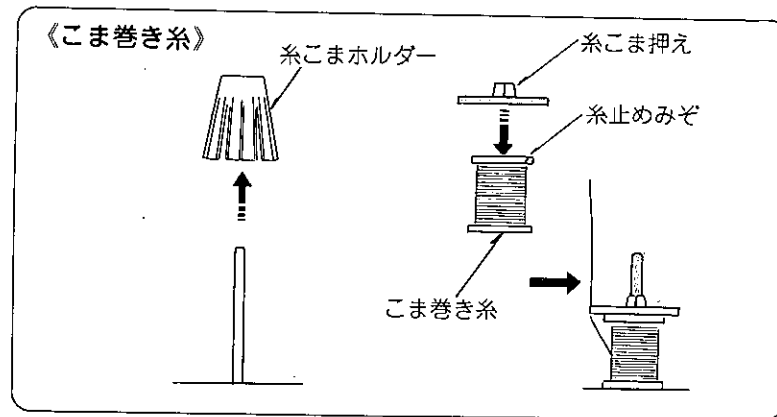
★あけ方
つまみを右いっぱい寄せながら、手前にひ
きます。
★しめ方
あけて軽く押しつけます。

●糸掛けスタンドの位置決め



- ①糸掛けスタンドをいっぱい伸ばします。
- ②糸掛けが糸立て棒の真上にくるように、糸掛けスタンドを回転させて、ストッパーで位置決めします。

●糸こま押え、糸こまネットのつけ方

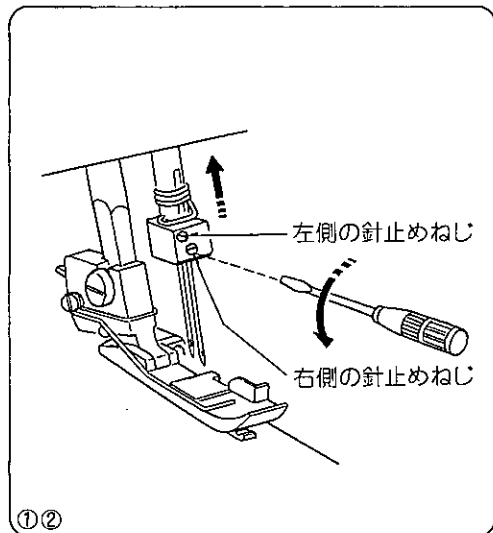


このミシンはこま巻き糸と、チーズ巻き糸が使用できます。

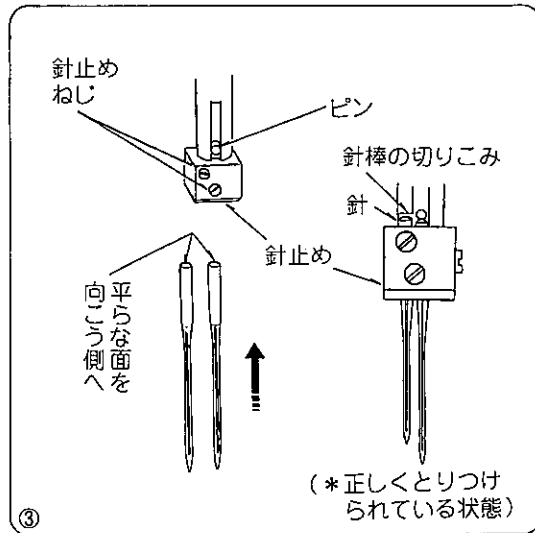
*こま巻き糸は、糸巻きの糸止めみぞのあるほうを上にして、糸こま押えをはめてください。

*化繊糸などの巻きがくずれやすい糸を使用するときは、付属の糸こまネットを下からかぶせてご使用ください。

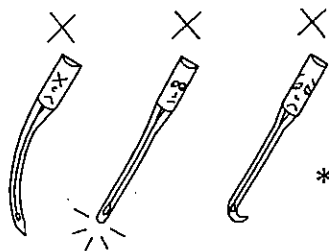
●針のとりかえ方



- ①電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜きます。
- ②針をあげ、とりかえようとしている針の方の針止めねじをゆるめて、針をはずします。

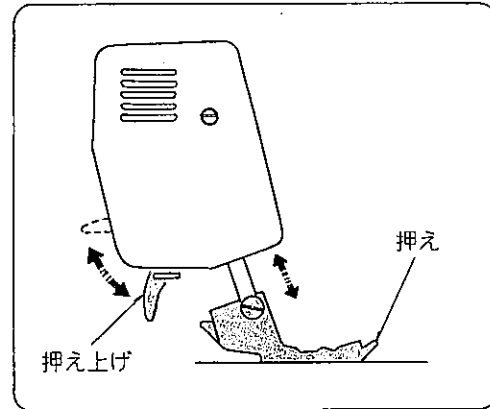


- ③右側の針をつけるとき
針止めの右側の穴に、針の平らな面を向こう側に向けて、奥いっぱいピンにあたるまでさしこみ、右側の針止めねじをかたくしめます。
 - 左側の針をつけるとき
針止めの左側の穴に、針の平らな面を向こう側に向けて、奥いっぱい針棒の切りこみにあたるまでさしこみ、左側の針止めねじをかたくしめます。
- *針が正しくとりつけられていると、左側の針は右側の針よりも少しあがった位置にあります。



*全体にまがってしまったものや、針先のつぶれたりまがったりしたものは、使用しないでください。

●押えのあげ方、さげ方

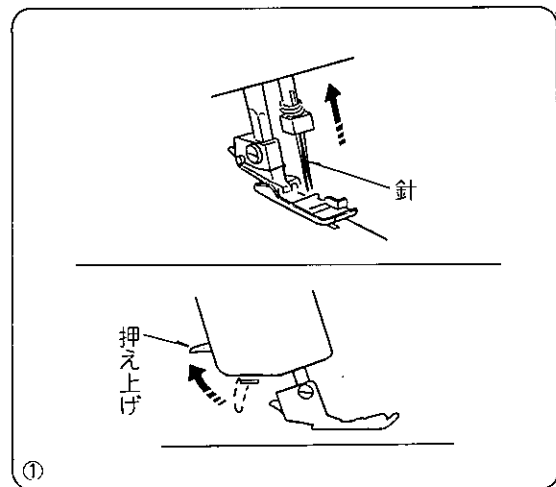


押え上げをあげさげして、押えをあげたり、さげたりします。

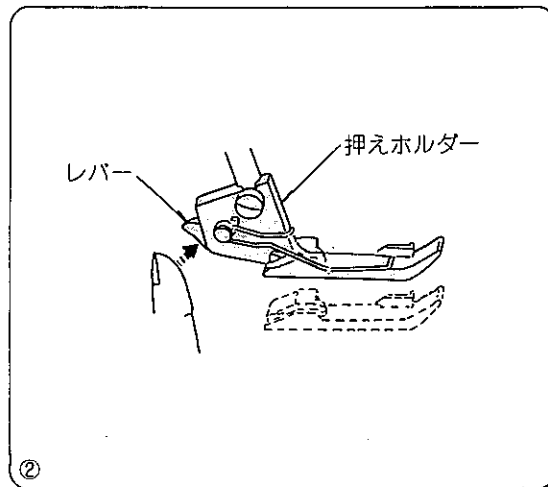
- *一般に、糸を通しなおすときと、厚い布を縫うとき以外は、押えをさげたままにして使用します。
- *押えをあげても、糸調子は、ゆるみません。

●押えのはずし方、つけ方

★はずし方

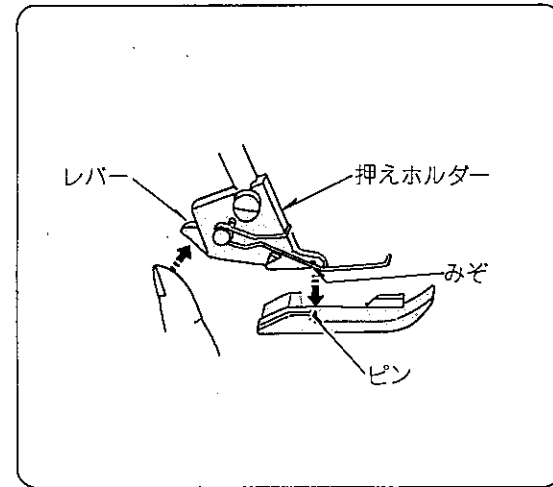


①針をあげ、押え上げをあげます。



②押えホルダーのレバーを押して、押えをはずします。

★つけ方

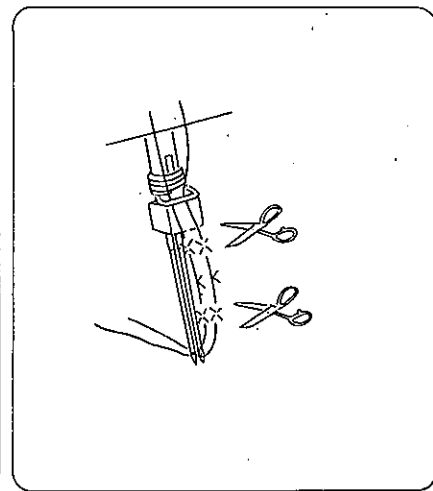
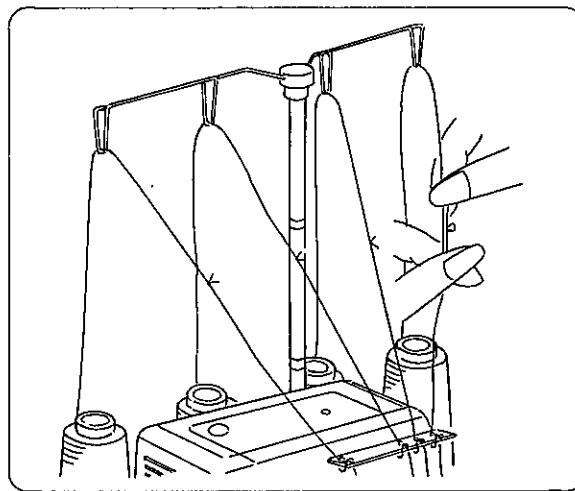
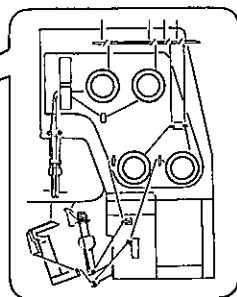
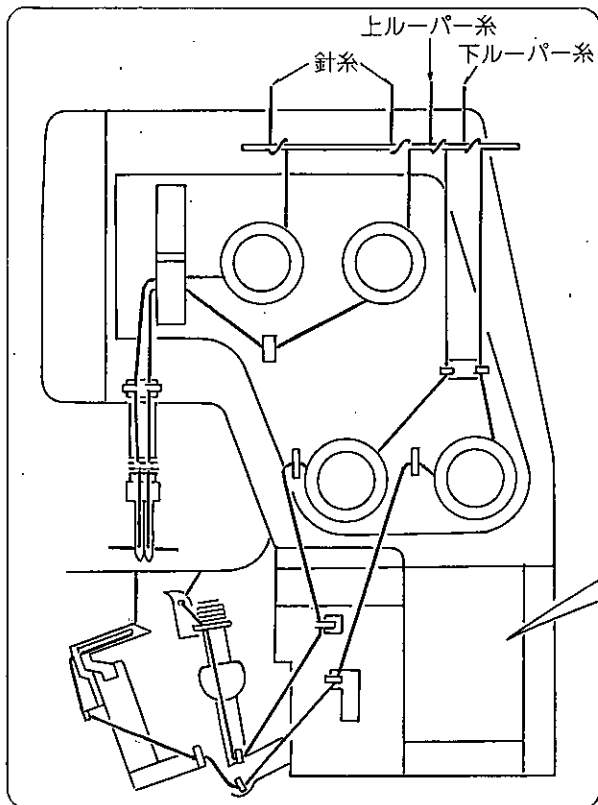


押えのピンを押えホルダーのみぞの真下において、押え上げを静かにおろし、レバーを押します。

*押え上げをあげ、押えが確実に付いているのを確認してください。

●糸の通し方

途中で糸が切れた場合、糸掛けをして、定規等で一度、糸のかけをきれいにとってから縫い始めます



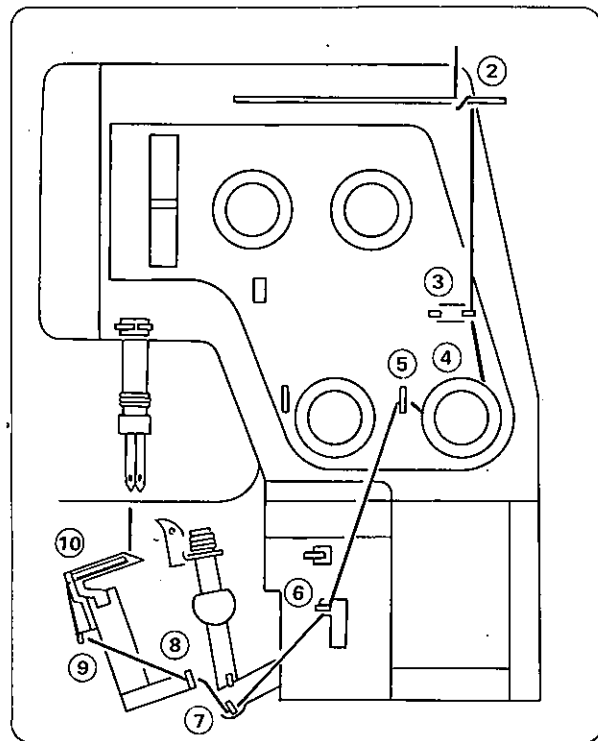
このミシンは、あらかじめ糸がセットしてあります。ご使用になる糸をセットしてある糸につないで引き出すと、容易に糸が通せます。また、糸の通し方をまちがえると、目飛びや、糸切れの原因となりますので、正しい順序で糸通しをしてください。糸は、下ルーパー糸、上ルーパー糸、右針糸、左針糸の順が通しやすいやり方です。

*糸道案内図は、ルーパーカバーの内側にあります。

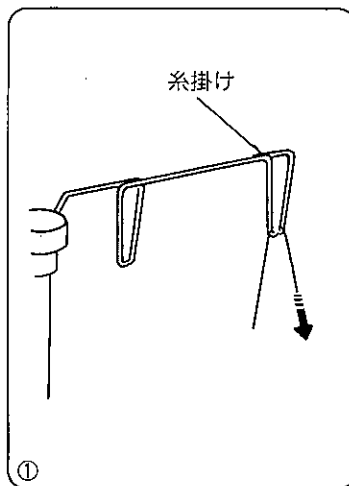
糸こまから引き出した糸を、糸掛けスタンドの糸掛けに通してから、あらかじめミシンにセットしてある糸につないで、押え上げをあげ、結び目が押えの下から向こう側へ出るまで引き出します。ただし、針糸を引き出すときは、針を曲げたり折ったりしないように、結び目を針穴の手前で止め、糸を切って、針糸通しで糸を通してください。

(針糸通しの使い方は、17、19ページ参照)

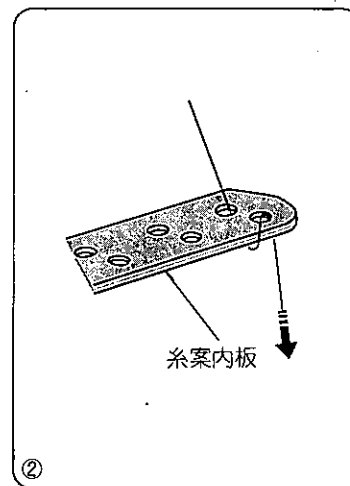
★下ルーパー系の通し方



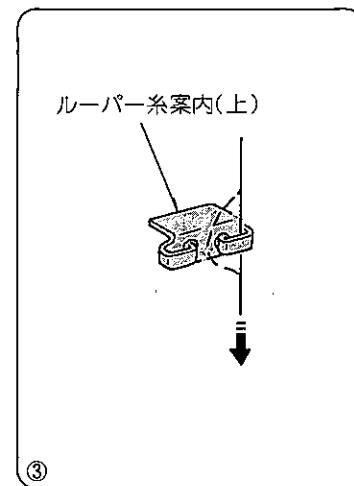
- * 緑色マークの糸道を通してください。
- * ルーパーカバーと布板をひらきます。
- * 糸道案内図は、ルーパーカバーの内側にあります。



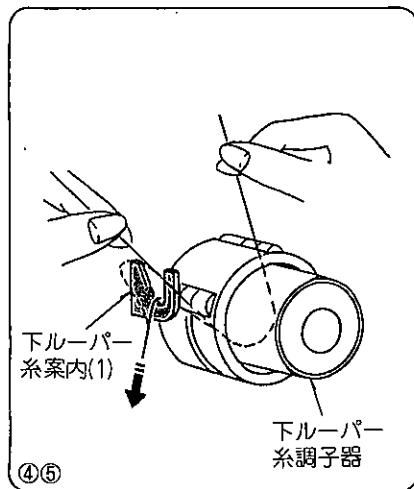
① 糸こまから糸を引き出して、右側の糸掛けに掛けます。



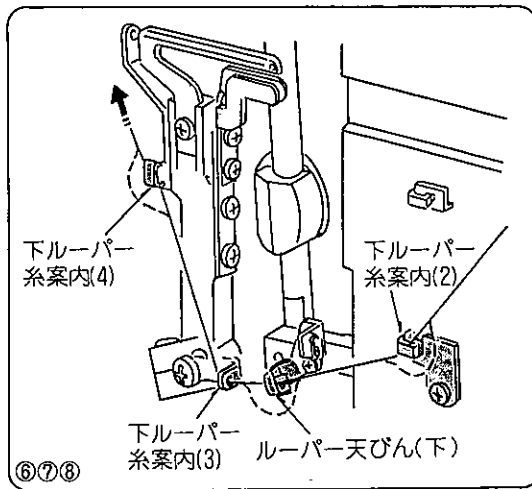
② 糸案内板の右側の2つの穴に通します。



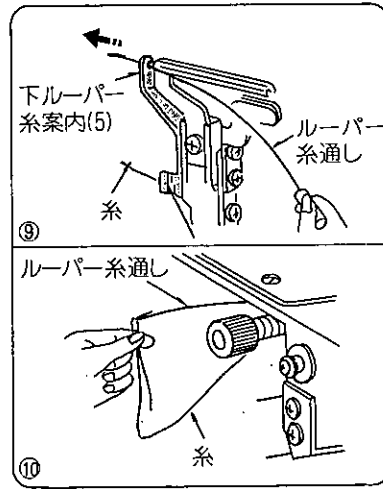
③ ルーパー系案内(上)の右側に掛けます。



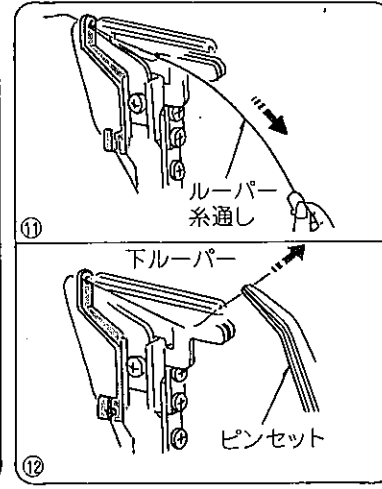
- ④右手で糸を押さえ、左手で糸端をつまんで、下ルーパー系調子器の下側にまわした糸を、図のように引き上げて、糸調子皿の間に入れます。
- ⑤下ルーパー系案内(1)に掛けます。



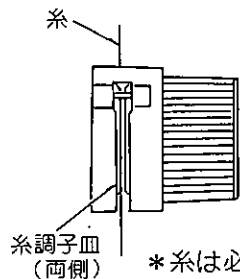
- ⑥下ルーパー系案内(2)に掛けます。
- ⑦はずみ車を回して、ルーパー天びん(下)を掛けやすい位置にしてから糸を掛けます。
- ⑧下ルーパー系案内(3)と下ルーパー系案内(4)に掛けます。



- ⑨ルーパー系通しを、下ルーパー系案内(5)の穴に通します。
- ⑩ミシンの左側からルーパー系通しの先端に糸ループを引っ掛けます。

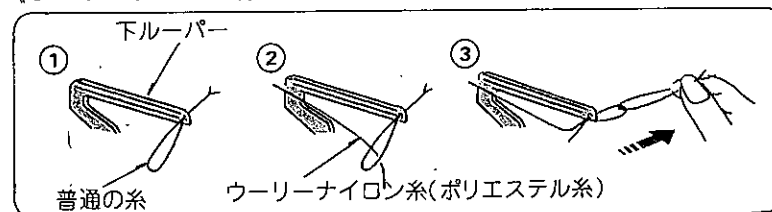


- ⑪ルーパー系通しを引きもどして、糸を下ルーパー系案内(5)に通します。
- ⑫下ルーパー系通しをはずし、下ルーパーの穴に糸を通し、糸端をピンセットで引き出します。糸端は、押えの下から向こう側に10cmほど引き出しておきます。



*糸は必ず糸調子皿の間に
入れてください。

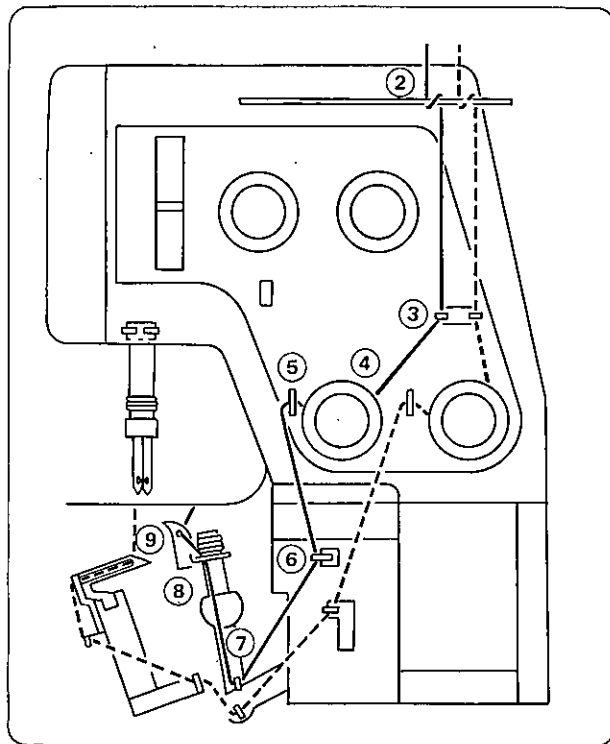
《ウーリーナイロン糸やポリエステル糸の通し方》



○下ルーパーの穴に通しにくいウーリーナイロン糸やポリエステル糸などは、上図の方法で通します。

*上ルーパーの場合にも、同じ方法で糸通しをしてください。

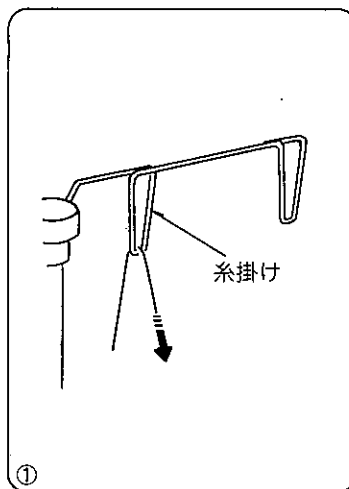
★上ルーパー系の通し方



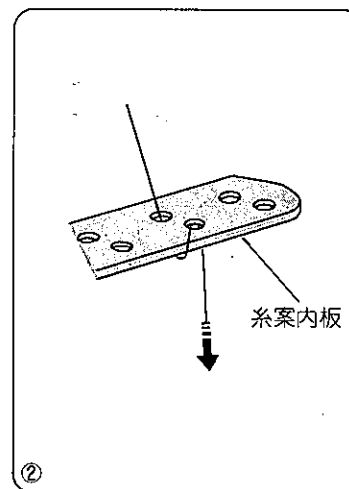
*青色マークの糸道を通してください。

*ルーパーカバーをひらきます。

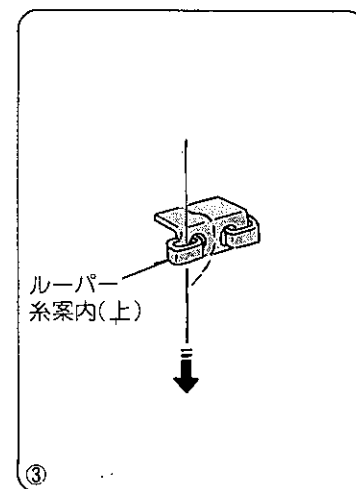
*糸道案内図は、ルーパーカバーの内側にあります。



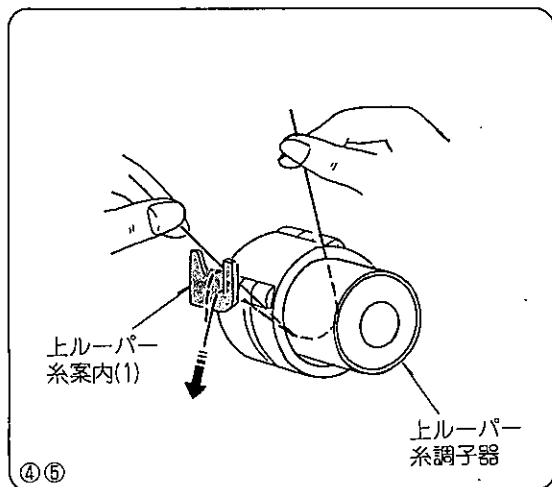
①糸こまから糸を引き出して、右から2番目の糸掛けに掛けます。



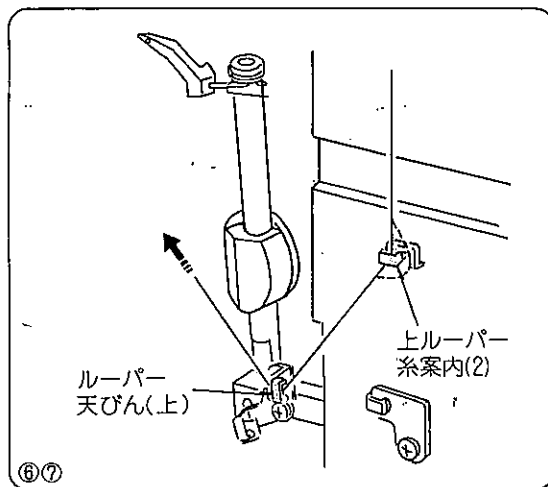
②糸案内板の右から2番目の2つの穴に通します。



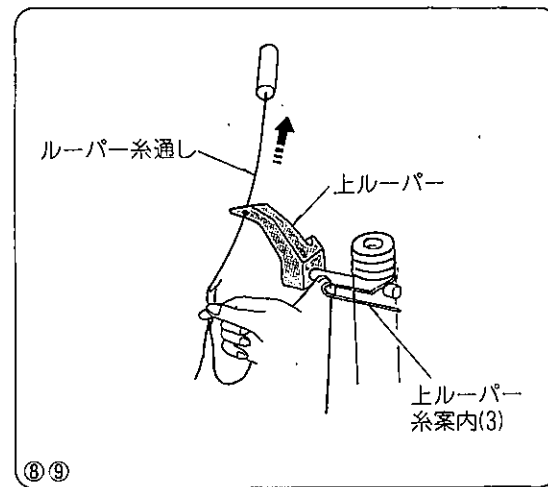
③ルーパー糸案内(上)の左側に掛けます。



- ④右手で糸を押さえて、左手で糸の先端を引き、上ルーパー系調子器の糸調子皿の間に入れます。
- ⑤上ルーパー系案内(1)に掛けます。

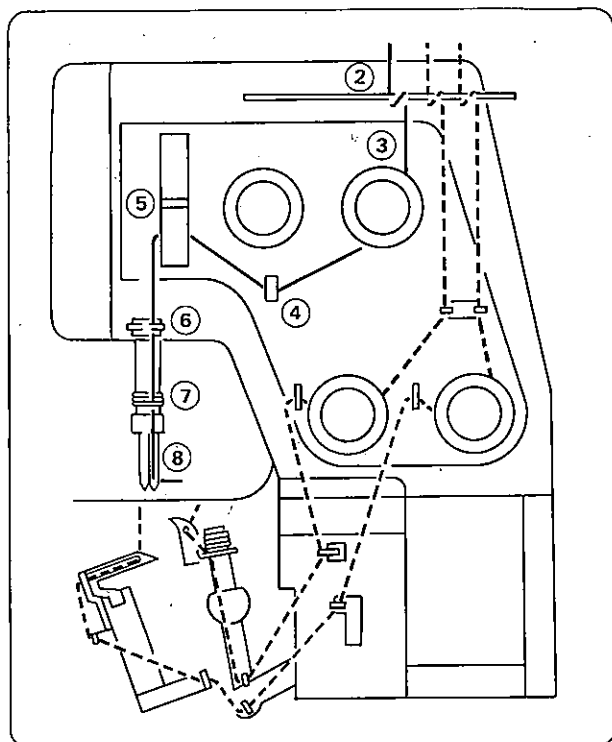


- ⑥上ルーパー系案内(2)に掛けます。
- ⑦はずみ車を回してルーパー天びん(上)を掛けやすい位置にしてから、糸を掛けます。

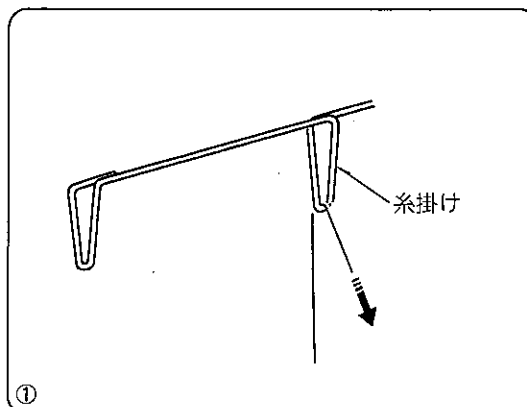


- ⑧上ルーパー系案内(3)に掛けます。
- ⑨ルーパー系通しを上ルーパーの穴に通して、糸通しの先端に糸ループを引っ掛けて引きもどします。
- ルーパー系通しをはずし、糸端を押えの下から向こう側へ10cmほど引き出しておきます。

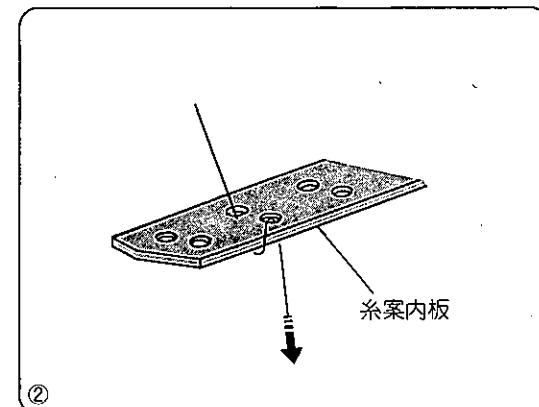
★右針糸の通し方



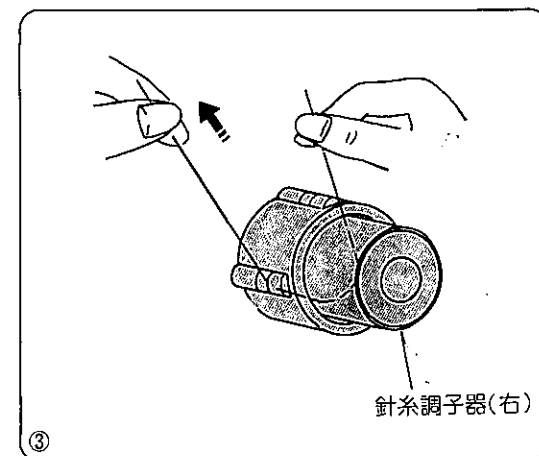
- * オレンジ色マークの糸道を通してください。
- * 糸道案内図は、ルーパーカバーの内側にあります。



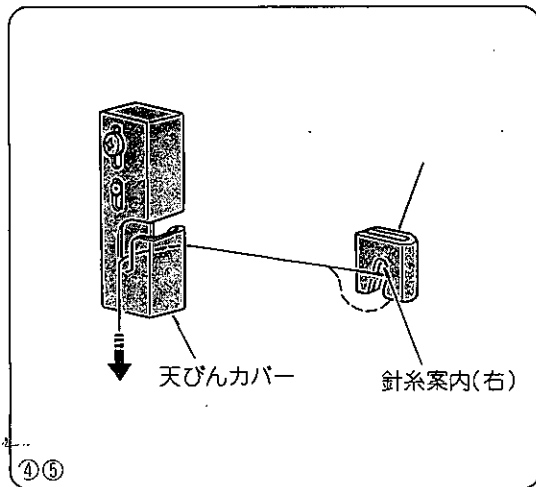
①糸こまから引き出した糸を、左から2番目の糸掛けに掛けます。



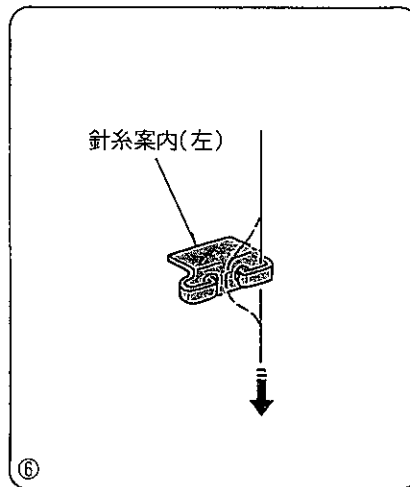
②糸を糸案内板の左から2番目の2つの穴に通します。



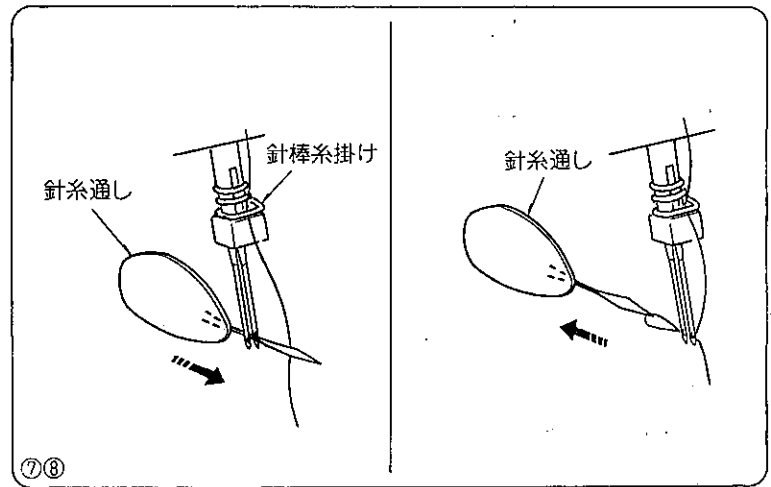
③右手で糸を押さえ、左手で糸の端を引いて、針糸調子器(右)の糸調子皿の間に入れます。



- ④はずみ車を回して針を最上部にあげ、糸を針系案内(右)に掛けます。
 ⑤天びんカバーに掛けます。

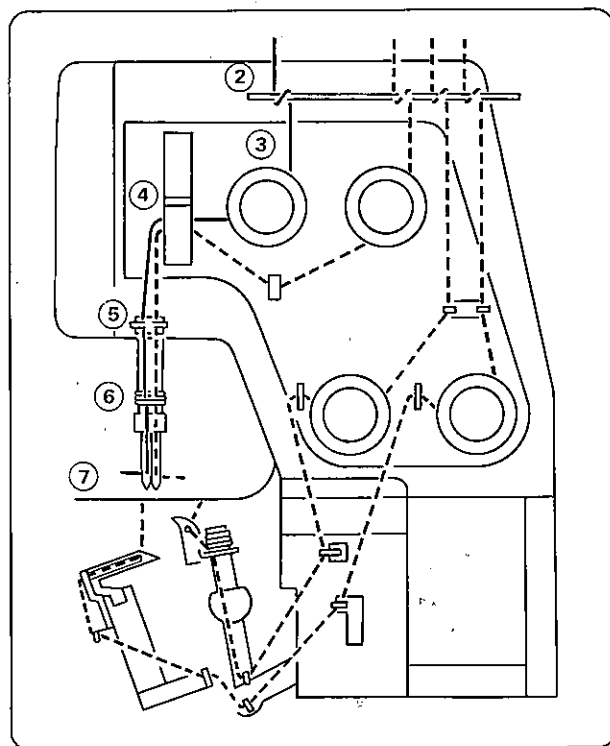


- ⑥針系案内(左)の右側に左から右に掛けます。



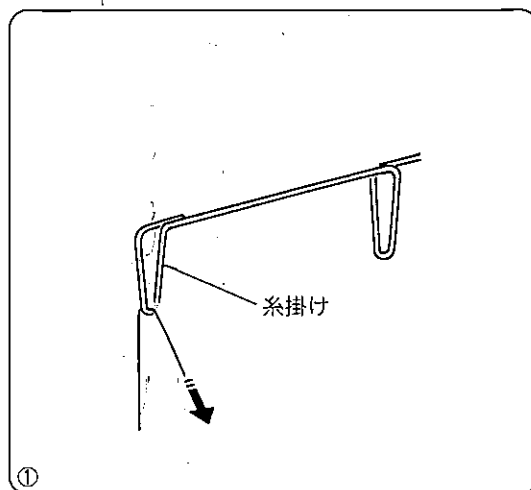
- ⑦針棒糸掛けに掛けます。
 ⑧針系通しを右の針の針穴に向こう側から通します。次に、糸を糸通しのループに通し、糸通しを引きもどします。針系通しをはずし、糸端を押えの下から向こう側へ10cmほど引き出しておきます。

★左針系の通し方

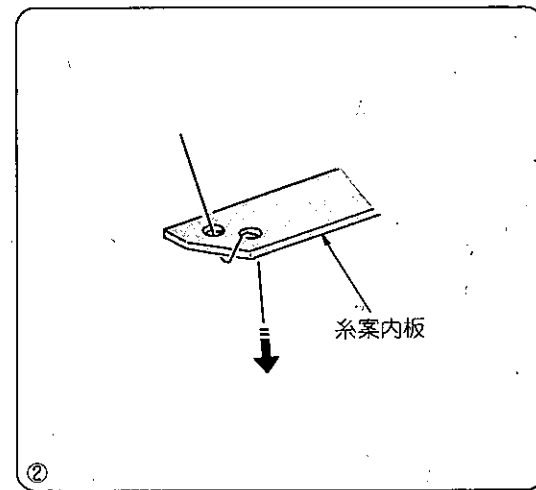


*赤色マークの糸道を通してください。

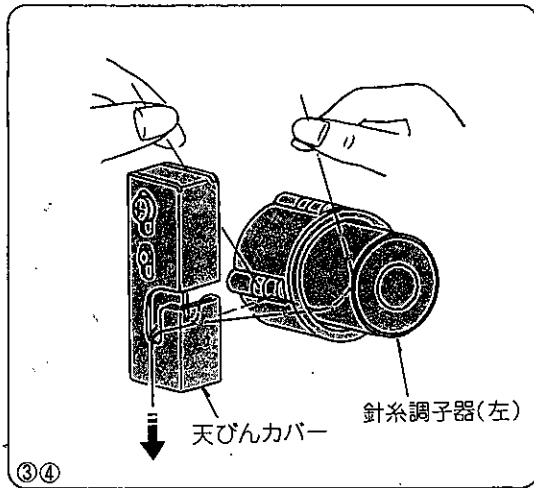
*糸道案内図は、ルーパーカバーの内側にあります。



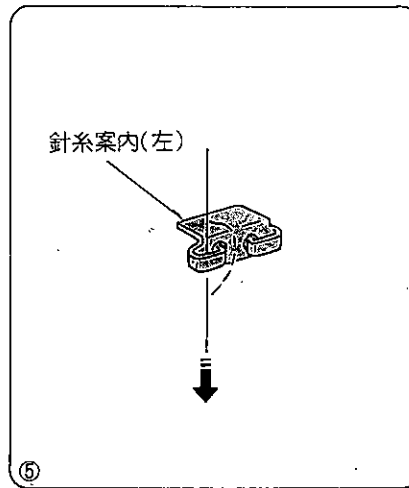
①糸こまから引き出した糸を、左の糸掛けに掛けます。



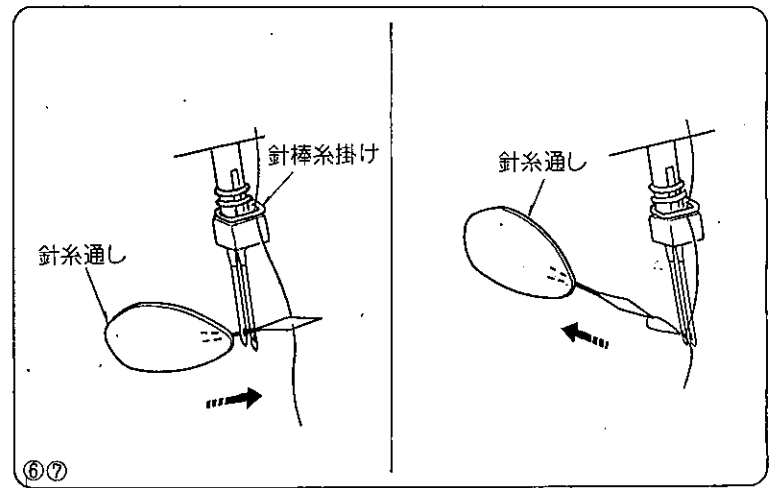
②糸を糸案内板の左の2つの穴に通します。



- ③右手で糸を押さえ、左手で糸の端を引いて針糸調子器(左)の糸調子皿の間に入れます。
- ④はずみ車を手前に回して針を最上部にあげ、糸を天びんカバーに掛けます。



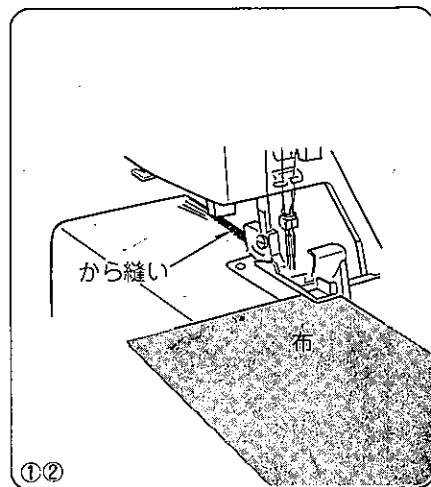
- ⑤針糸案内(左)の左側に右から左に掛けます。



- ⑥針棒糸掛けに掛けます。
- ⑦針糸通しを左の針の針穴に向こう側から通します。次に、糸を糸通しのループに通し、糸通しを引きもどします。針糸通しをはずし、糸端を押えの下から向こう側へ10cmほど引き出しておきます。

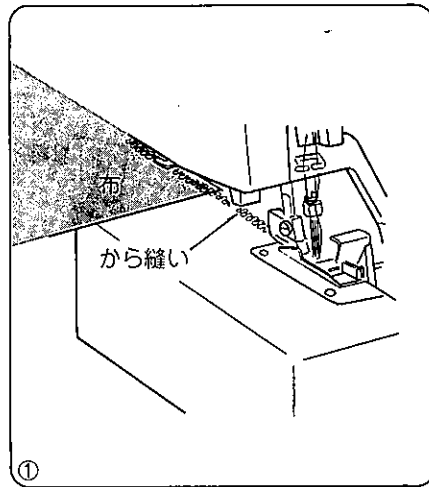
● 試し縫いをしましょう

★縫いはじめ

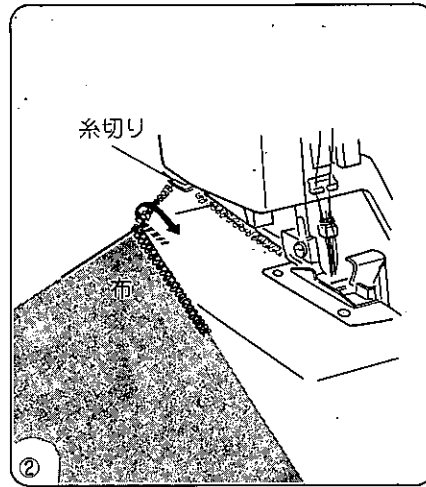


- ① 押え上げをさげます。
 - ② 4本の糸を押えの下から向こう側に引きそろえて、ゆっくり縫いはじめ、5～6cm、から縫いをします。から縫いした糸のからみぐあいを確かめてから、布をセットして縫いはじめます。(押えをあげる必要はありません。)
- 布は自動的に送られますから、手は、布地を縫いたいと思う方向に布を導くだけにしてください。

★縫い終わり

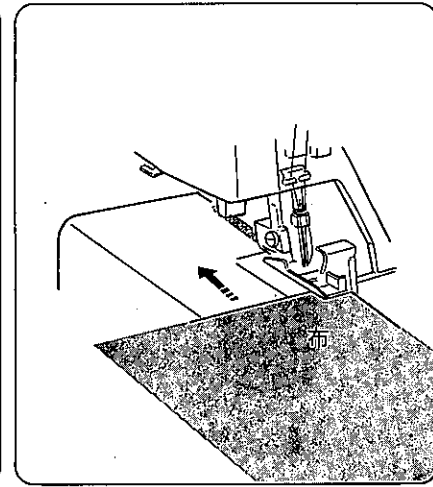


- ① 布端まで縫い終わったら、そのままミシンを低速で、約12cm、から縫いをします。



- ② 布の端より5～6cm残し、から縫いをした糸を糸切りかはさみで切ります。

★つづけて縫うとき



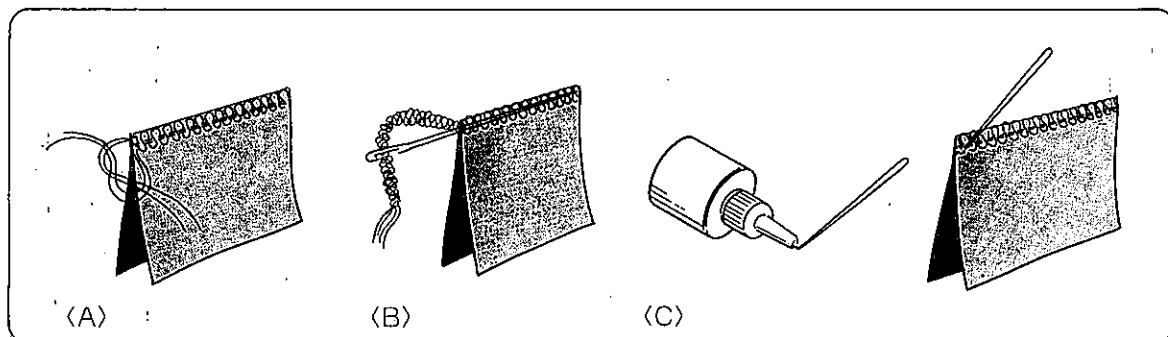
- ② 押え上げをあげずに、つぎの布地を押えの下に差し込むようにして縫います。

* 厚い布を縫うときは、押え上げをあげ、布地を上メスの手前まで差し入れ、押え上げをさげて縫います。

●ほつれ止めの仕方

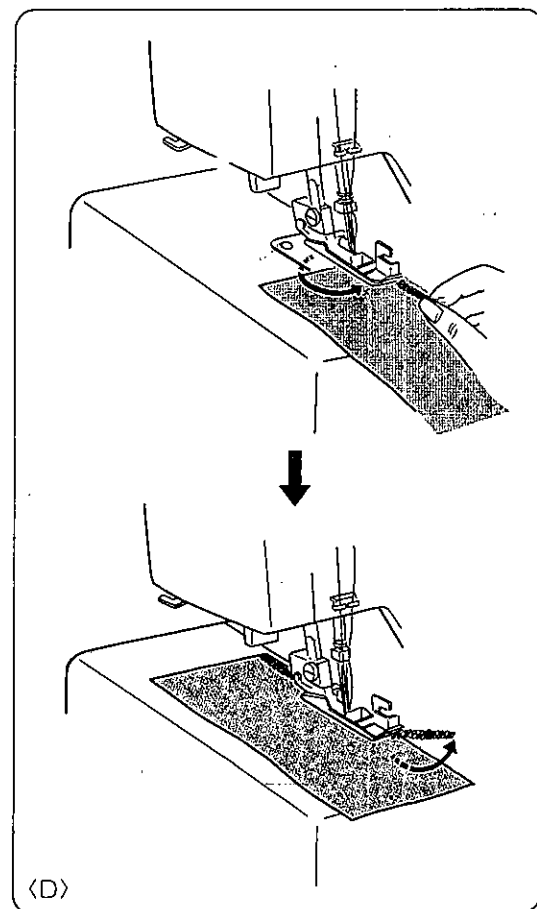
ロックミシンには、通常返し縫いの機能はついていません。従って、縫いほつれを防止する為に、縫い始めと縫い終りに約5～6cm程のから縫い目(＝空環)を残しておきます。空環は、面板についている糸切りで切れれば丁度よい長さが残せます。縫いほつれ止めには、色々な方法があります。一般的な方法として、

★縫い始めの糸始末



- 〈A〉 空環の針糸とルーパー糸を一緒に縫い始めの布のきわで片結びする。
〈B〉 空環を刺繍針(手芸用)に通し、図のようにかがり縫いの中に通しておく。
〈C〉 空環を布端で切り、市販のほつれ止め液(ピケ)を少量つけてほつれを止める。
〈D〉 布をUターンさせる方法

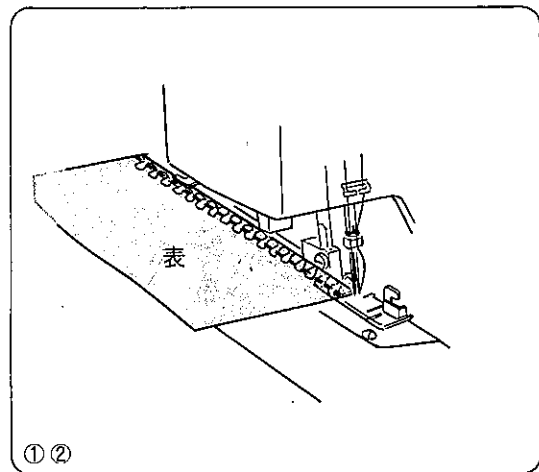
- ①縫い始める前に、約5cm位空環を作る。
- ②次に布を押えの下にすべり込ませ、数針縫ってミシンを止める。
- ③針を上げて、針棒糸かけあたりの針糸に指をかけ、針糸を手前側に約2～3cm糸調子ダイヤルの方から引張り出す。次に押えを上げ針板の爪にかかっている空環を押えの向う側へ外すようにして布をそっと引き出す。
- ④外した空環を左側から押えの下に入れ(図参照)、空環をゆるく手に持ち、押えをおろし空環を布端に沿わせながら一緒にかがり縫いする。
- ⑤大体3cm程縫ったら、空環を押えの下から右端に持ってきて、メスの下側に入れ、そのまま縫いながら空環の余分を切り落とす。



★縫い終りの糸始末

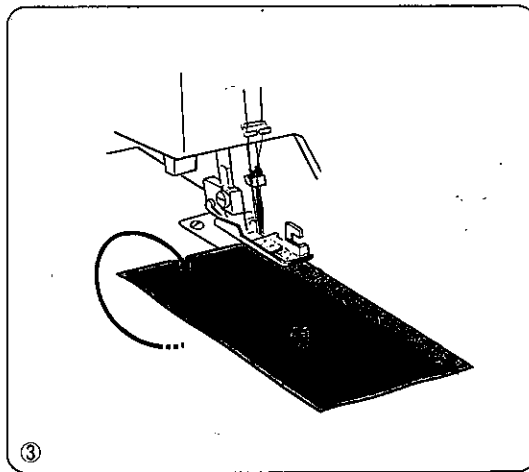
前頁の縫い始めの糸始末の項の〈A〉～〈C〉までの方法をそのまま応用できます。

その他の方法として、

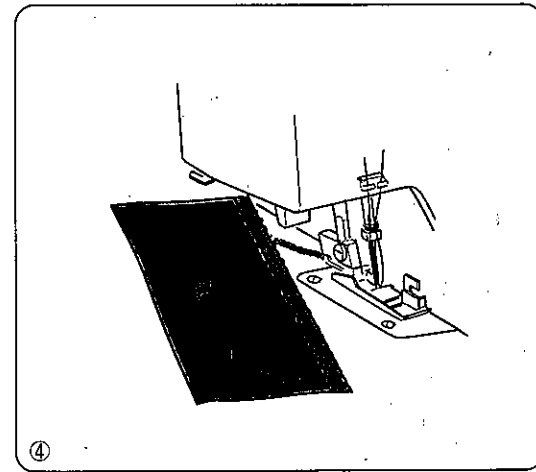


①縫い終りまで達したら、1針だけ布のないところを空縫いし、空環を作る。

②針を上げて、針棒糸かけのところの針糸に指をかけ、針糸を手前側に2～3cm程引張り（糸調子ダイヤルの方から）針糸をゆるめる。



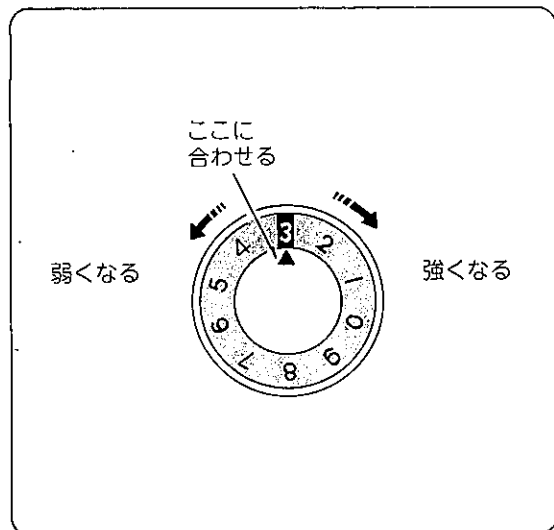
③押えを上げ、布を一旦向う側へ引き出すようにして手前へ反転（裏返し）させる。



④ゆるめておいた針糸を元に引き戻し（糸調子ダイヤルから糸コマの方へ）、そのまま2～3cm縫ったら左の方へ外しながら少し空環を作る。布端に残った空環ははさみで切り落とす。

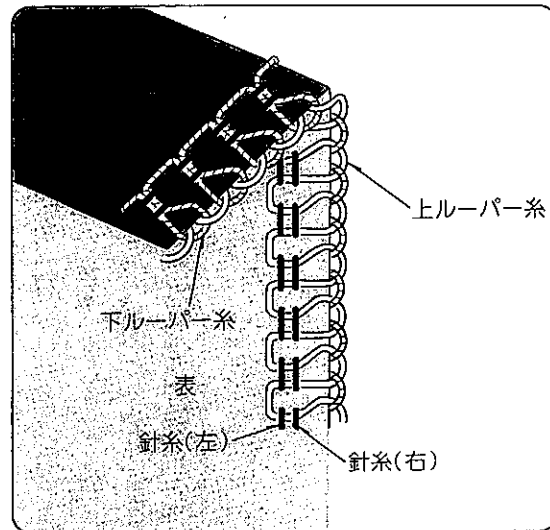
●糸調子の出し方(2本針4本糸)

★糸調子器

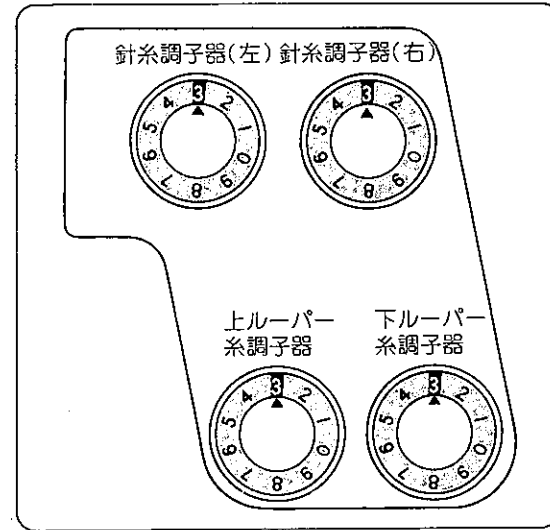


○糸調子器を数字の大きい方へ回すと強くなり、数字の小さい方へ回すと弱くなります。

★正しい糸調子



★糸調子の目安



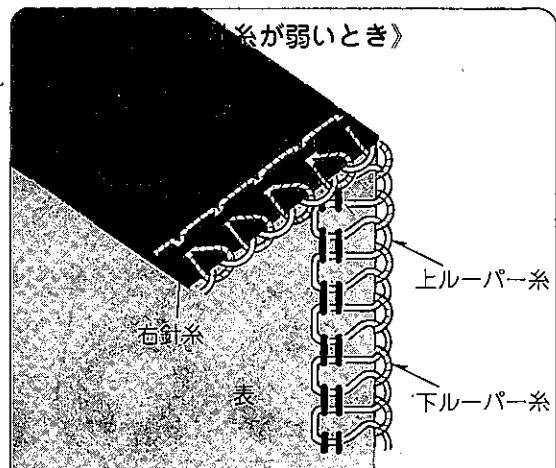
○糸調子の目安は、布地の種類や糸の太さ、種類によって多少の調整を必要とすることがありますので、縫い目を見ながらそれぞれの糸調子器で調整してください。

《糸調子の出し方》

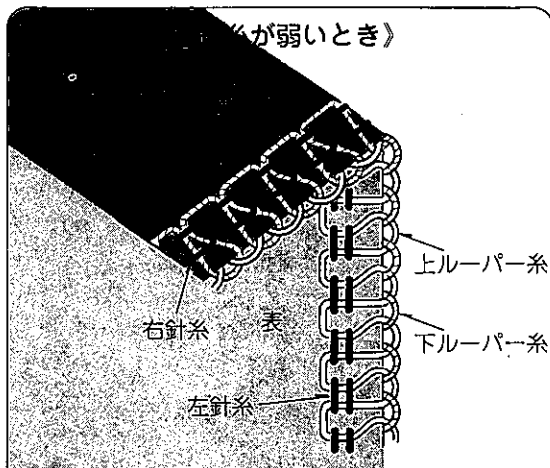
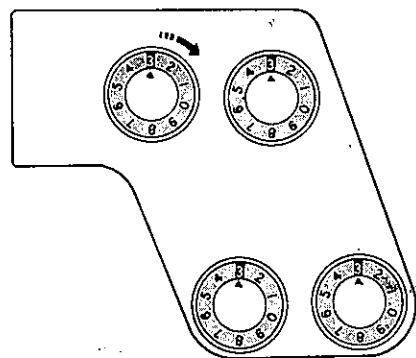
- ①針糸、上ルーパー糸、下ルーパー糸の各糸調子器は、目盛「3」を基準にして試し縫いをします。
- ②糸調子のバランスがとれていないときには、24～25ページを参照して正しく調節してください。

★糸調子の調節の仕方

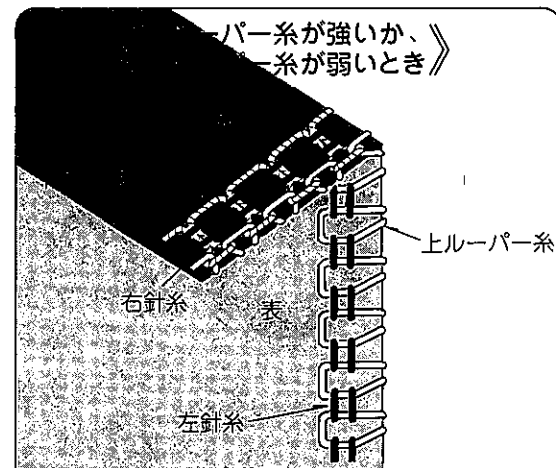
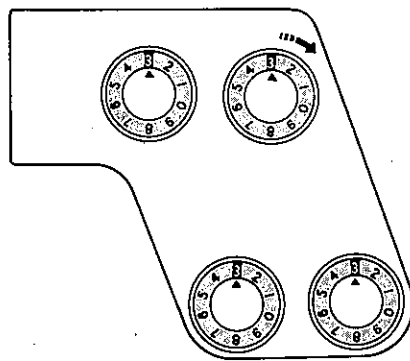
* 針糸、上ルーパー糸、下ルーパー糸の4つの糸調子は、目盛「3」を基準に試し縫いをして正しく調節してください。



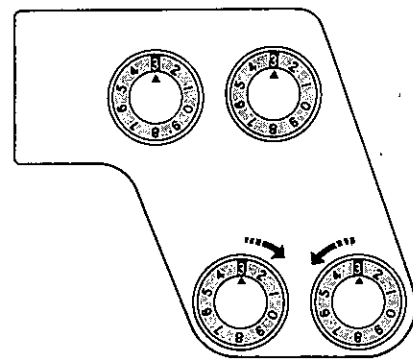
針糸調子（左）を強くします。



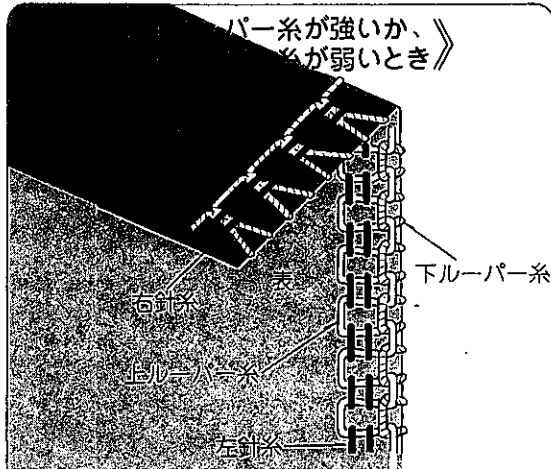
針糸調子（右）を強くします。



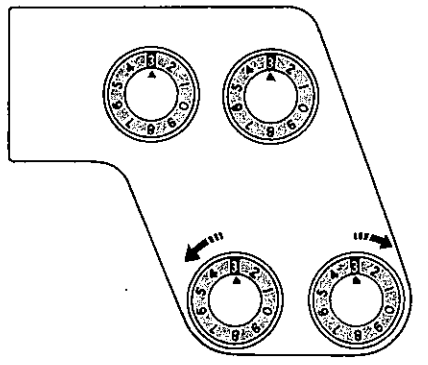
下ルーパー糸調子を弱くする。または、上ルーパー糸調子を強くする。



* 最初に針糸から調節してください。

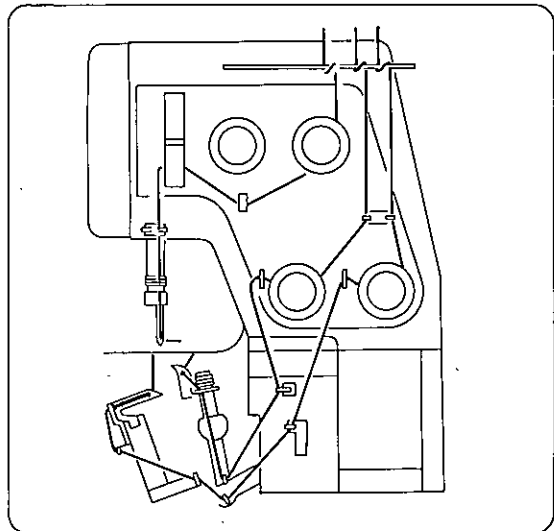


上ルーパー系調子を弱くする。または、
下ルーパー系調子を強くする。



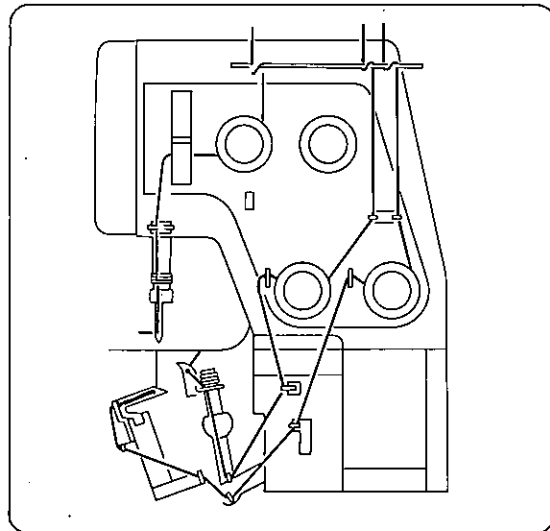
●糸調子の出し方(1本針3本糸)

★右針を使うときの糸の通し方
(かがり幅3.5mm)



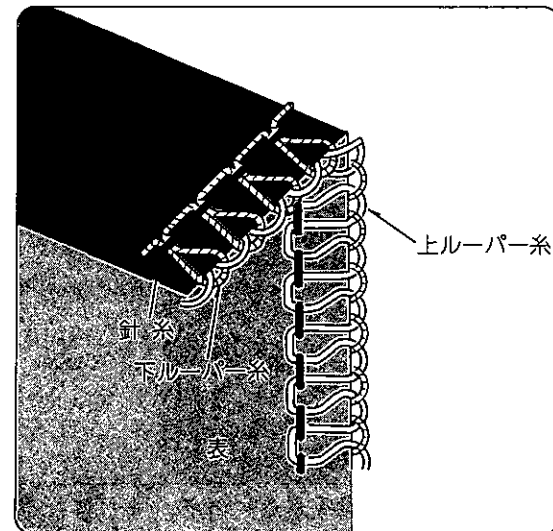
左側の針止めねじをゆるめて左針をはずし、ゆるめた針止めねじがはずれないように、軽くしめておきます。

★左針を使うときの糸の通し方
(かがり幅5.7mm)



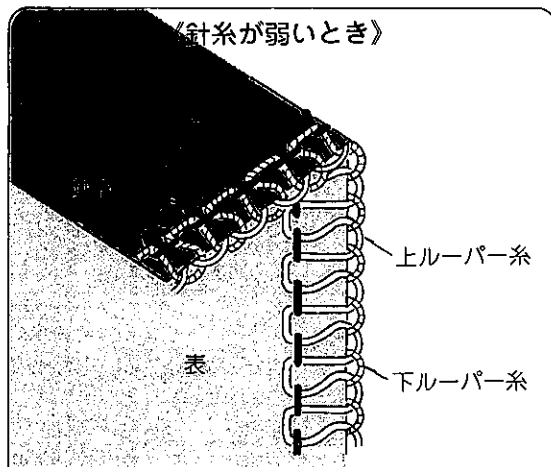
右側の針止めねじをゆるめて右針をはずし、ゆるめた針止めねじがはずれないように、軽くしめておきます。

★正しい糸調子

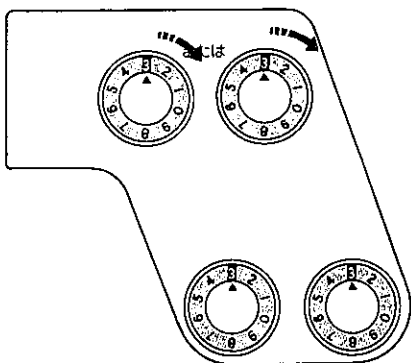


★糸調子の調節の仕方

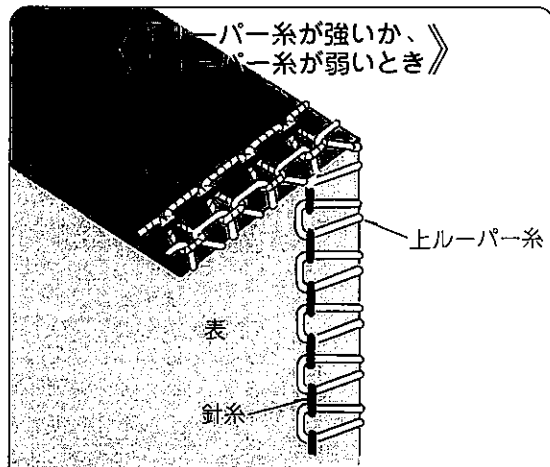
*針糸、上ルーパー糸、下ルーパー糸の3つの糸調子は、目盛「3」を基準に試し縫いをして正しく調節してください。



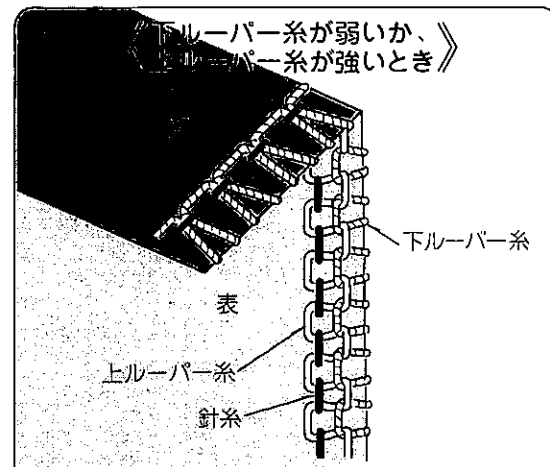
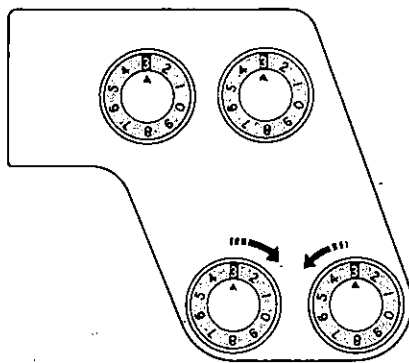
針糸調子を強くする。



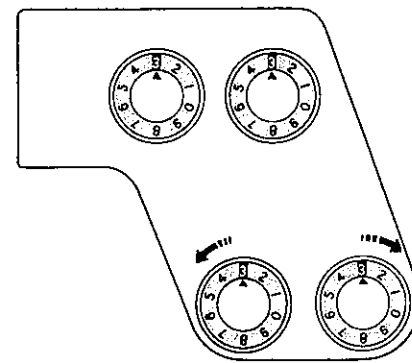
*最初に針糸から調節してください。



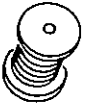
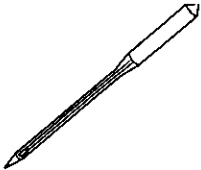
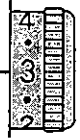
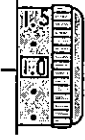
下ルーパー糸調子を弱くする。または、上ルーパー糸調子を強くする。



下ルーパー糸調子を弱くする。または、上ルーパー糸調子を強くする。

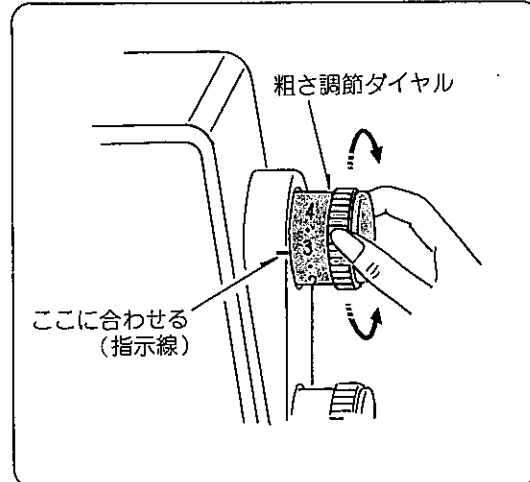
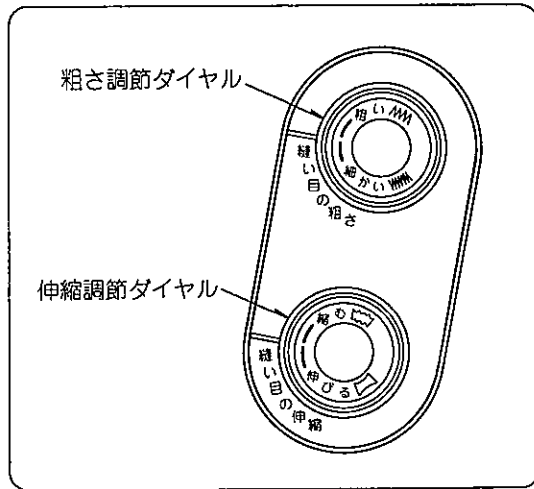


●布に適した糸や針を選ぶ目安《ふちかがり縫い》

布の種類		糸 	針 	粗さ調節 ダイヤル 	伸縮調節 ダイヤル 
うすい布	オーガンジー、ジョーゼット、 ローン、クレープデシン、 裏地	ロック用スパン糸 90番	HA-1ブルー針 11番	2~3	0.7~ <u>1.0</u>
普通の布	木綿地、リンネル、 サテン、	ロック用スパン糸 90番	HA-1ブルー針 11番~14番	2.5~3.5	<u>1.0</u>
厚い布	ツイード、コート地、 デニム、ドスキン、	ロック用スパン糸 80番~90番	HA-1ブルー針 14番	3~4	<u>1.0</u>
ニット地	メリヤス、編地	化繊糸 60番~90番 ウーリーナイロン糸 (ルーパー使用)	HA-1ブルー針 11番~14番	2.5~3.5	<u>1.0</u> ~2.0

*縫い目の粗さと伸縮の調整方法は、29~30ページをごらんください。

●縫い目粗さの調節の仕方



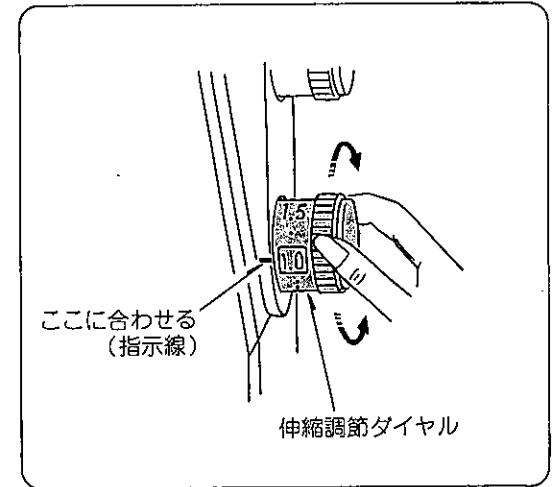
○粗さ調節ダイヤルをまわして、目盛を指示線にセットします。

縫いの種類に応じて目盛を選択してください。

*縫い目粗さは、最小1mmから最大4.0mmまで調整できます。

*粗さ調節ダイヤルの目盛「R」は、巻き縫い及び細ロック縫いをするときの縫い目粗さ(1.3mm~1.7mm)です。

●縫い目伸縮の調節の仕方

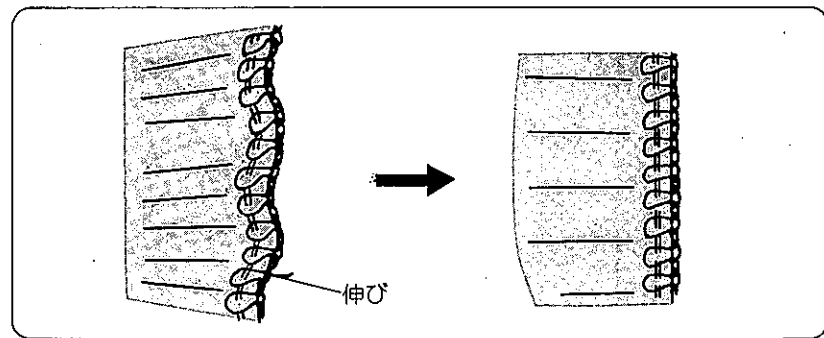


○伸縮調節ダイヤルをまわして、目盛を指示線にセットします。

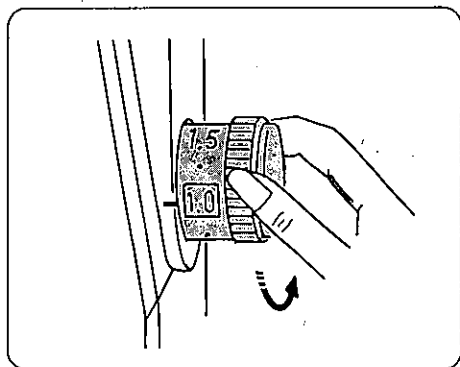
*伸縮送り(差動送り)は、伸縮調節ダイヤルで布を伸ばしたり、縮めたりしながら縫うことができます。

*縫い目粗さが3.3mm以上の時では、伸縮比(差動比)の調節範囲が0.7~1.7になります。

★布地が伸びてしまうときの直し方

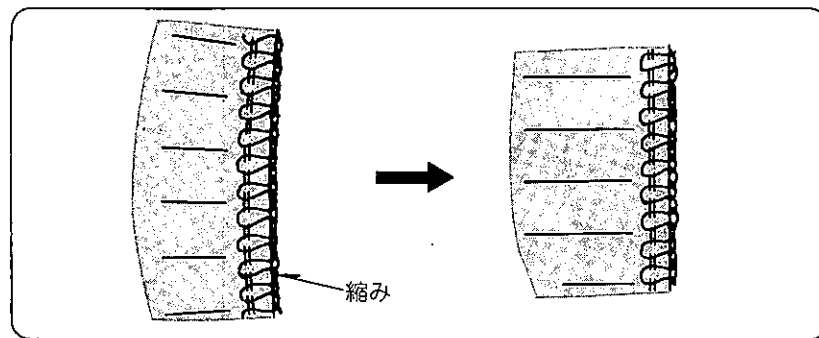


○伸縮調節ダイヤルを現在セットしている位置から手前側へまわし「2.0」の方へ近づけてください。

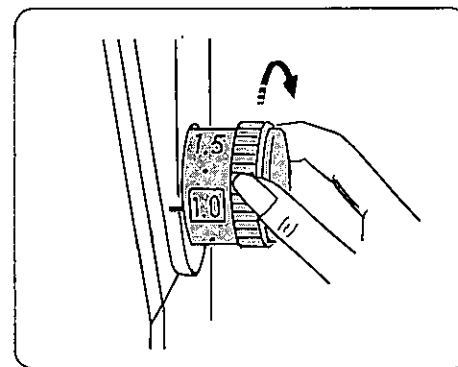


*「2.0」の方へセットするに従い、縫い伸び防止やギャザー・ロックの効果が高まります。

★布地が縮んでしまうときの直し方

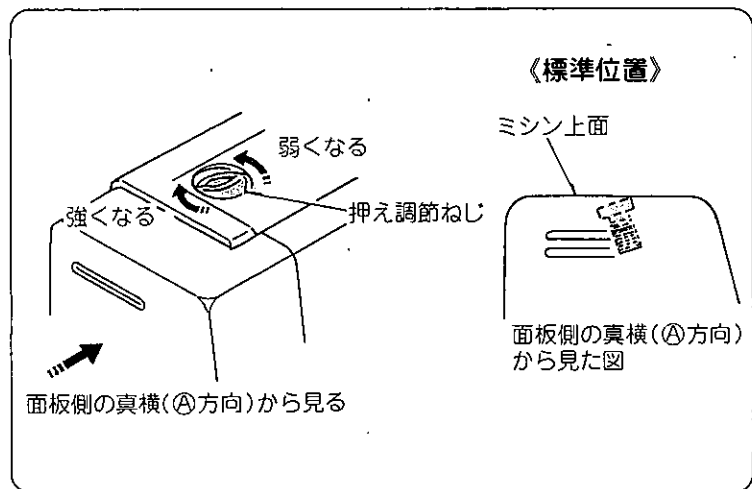


○差動調節ダイヤルを現在セットしている位置から向こう側へまわし「0.7」の方へ近づけてください。



*「0.7」の方へセットするに従い、縫い縮み防止やストレッチ・ロックの効果が高まります。

●押え圧力の調節



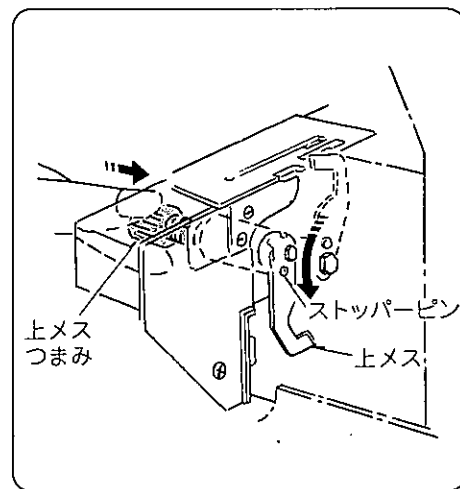
このミシンは、通常押え圧力を調節する必要はありませんが、極うすもの、極厚ものとき押え調節ねじで調節してください。

- 極うすものときは、圧力を弱くします。
- 極厚ものときは、圧力を強くします。

*縫いおわたたら、押え調節ねじは標準位置にもどしておいてください。

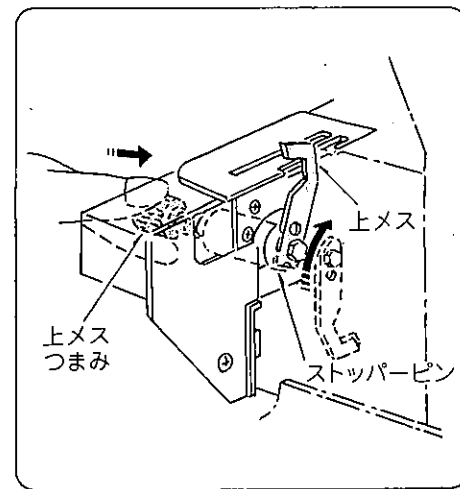
押え調節ねじの標準位置は、ミシンの上面と同じ高さになったときで、面板側の真横(Ⓐ方向)から見て、ねじがかくれるかかれないかぐらいのところにあります。

●上メスの解除



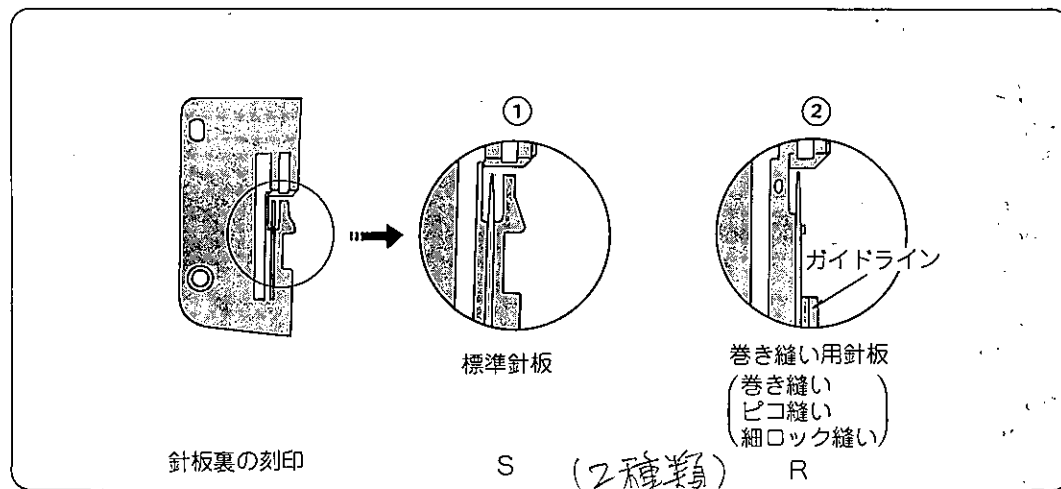
- ①電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜きます。
- ②ルーパーカバーと布板をひらきます。
- ③上メスつまみを右いっぱい押しながら、手前に回してストッパーピンを上メスの穴に入れます。
- ④ルーパーカバーと布板をしめます。

●上メスのもどし方



- ①電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜きます。
- ②ルーパーカバーと布板をひらきます。
- ③上メスつまみを右へいっぱい押しながら、上に回してストッパーピンを上メスの下側の溝に入れます。
- ④ルーパーカバーと布板をしめます。

●針板の種類

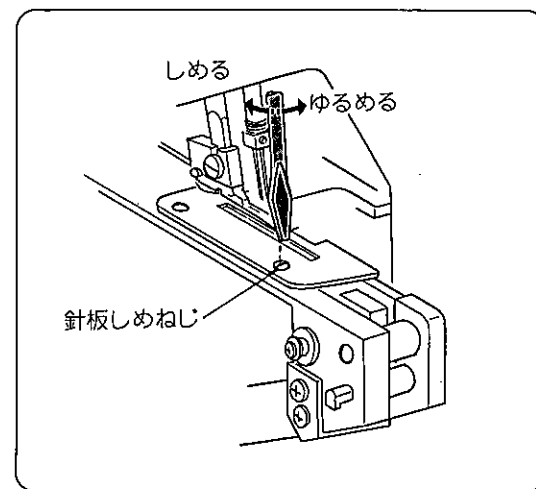


○針板は用途に応じて取りかえてください。

○標準針板は、ミシンに取りつけてあります。

*針板の交換をするときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから、電源プラグを抜いてください。

●針板の交換



①はずみ車を回して針を上にあげ、押え上げをあげて、押えをはずします。

②布板とルーパーカバーをひらきます。

③上メスを解除します。(31ページ参照)

④針板しめねじをゆるめ、針板をはずします。

⑤用途に適した針板をとりつけ、針板しめねじをしめます。

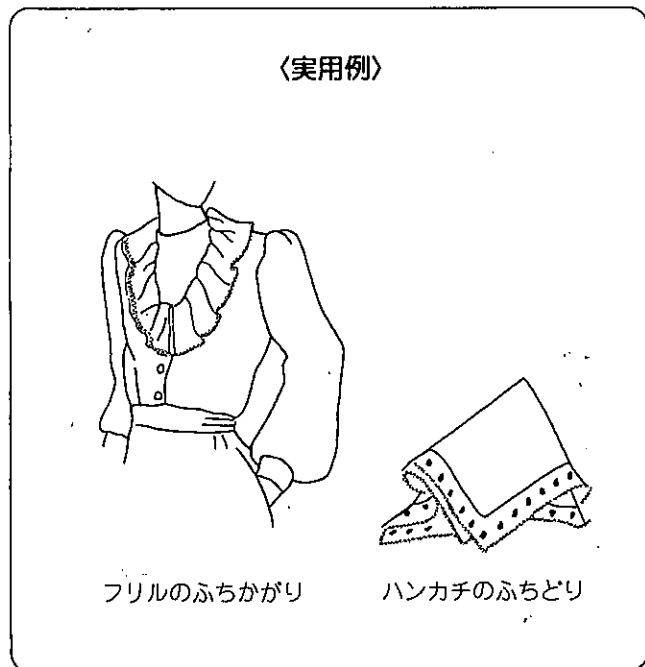
⑥上メスをもとにもどします。

(31ページ参照)




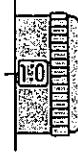

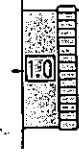
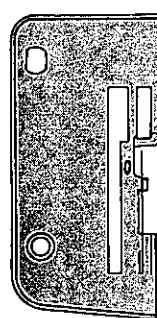
⑦ルーパーカバーと布板をしめます。

⑧押え上げをさげて、押えをとりつけます。

●巻き縫い、ピコ縫い、細ロック縫い



★ミシンのセット

	巻き縫い	ピコ縫い	細ロック縫い
粗さ調節 ダイヤル	 (R)	 (3~4)	 (R)
伸縮調節 ダイヤル	 1.0	 1.0	 1.0
針	右針 (左側の針をはずす。)		
針板	 巻き縫い用針板 (針板裏の刻印: R)		

応用縫い

*針板の交換は、32ページをごらんください。

巻き縫いでワシリー系を一本で使用する場合は
エリ・パートにかけろ

★布と糸の種類と糸調子の目安

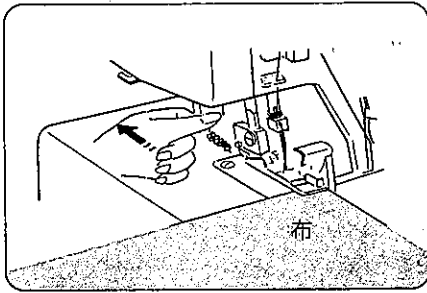
糸調子の目安は、布地の種類や糸の太さ、種類によって多少の調整を必要とすることがありますので、縫い目を見ながら各糸調子器で調整してください。

		巻き縫い	ピコ縫い	細ロック縫い
<p>うすい布</p> <p>オーガンジー、 クレープデシン ローン ジョーゼット</p>	針 糸	化繊糸 80番～100番		
	上ルーパー糸	ウーリーナイロン糸	化繊糸 60番～100番	ウーリーナイロン糸
	下ルーパー糸			
	針	HA-1ブルー針 11番		
	糸調子の目安			
正しい糸調子				

★糸調子の出し方

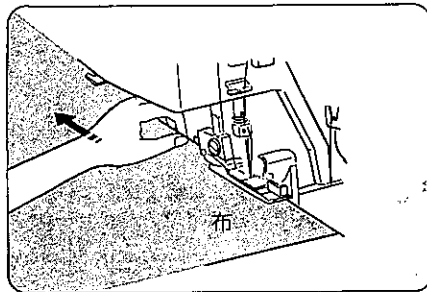
- ①各糸調子を34ページに示した「糸調子の目安」に合わせます。
- ②試し縫いをします。

《巻き縫い》



○縫いはじめは、から縫いた糸を指で少し引きぎみにして縫うときれいに仕上がります。

《ピコ縫い》

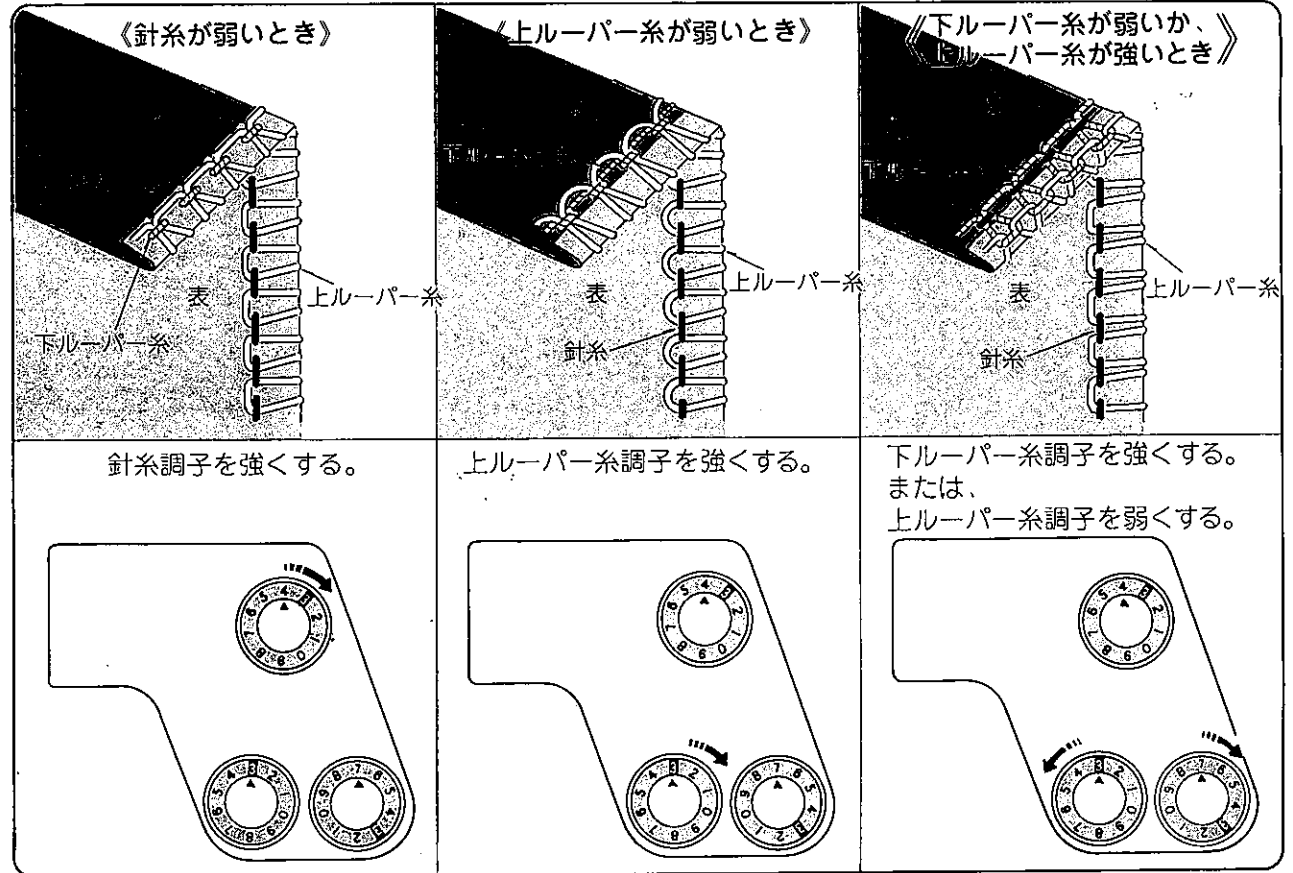


○布を軽く引きながら縫うと、きれいに仕上がります。

- ③正しい糸調子がとれないときは、糸調子の調節のし方にしたがって調節してください。

★糸調子の調節の仕方

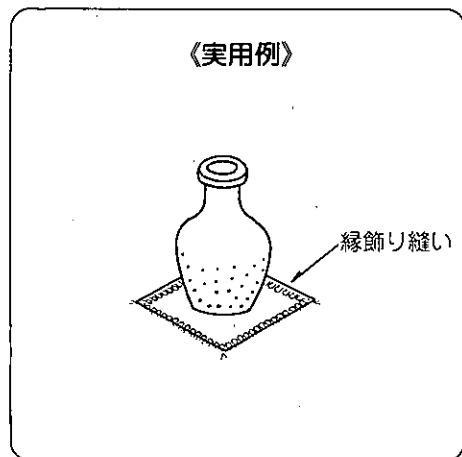
○巻き縫い・ピコ縫い



○細ロック縫い

糸調子の調節のし方は、26～27ページをごらんください。

●縁飾り縫い



★布と糸の種類と糸調子の目安およびミシンのセット

*糸調子の目安は、布地の種類や糸の太さ、種類によって多少の調整を必要とすることがありますので、縫い目を見ながら各糸調子器で調節してください。

布	糸		糸調子の目安
普通の布 厚い布	針糸	化繊糸 60番～80番	
	上ルーパー糸	飾り糸 極細毛糸	
	下ルーパー糸	化繊糸 60番～100番	

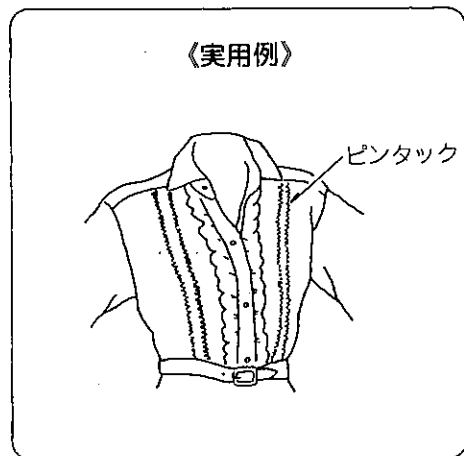
ミシンの セット	粗さ調節 ダイヤル	3～4
	伸縮調節 ダイヤル	1.0
	針板	標準針板(針板裏の刻印:S)
	針	HA-1ブルー針 14番

○糸調子の調節のし方は、ふちかがり縫いと同じです。(23～25ページ参照)

○糸調子は、まず上の表の位置に糸調子を合わせ、それからふちかがり縫いと同じ要領で調節してください。

○太い糸を使用するとき、縫いはじめと縫いおわりは、から縫いした糸を軽く引きながら縫うと、きれいに仕上がります。(35ページ参照)

●ピンタック

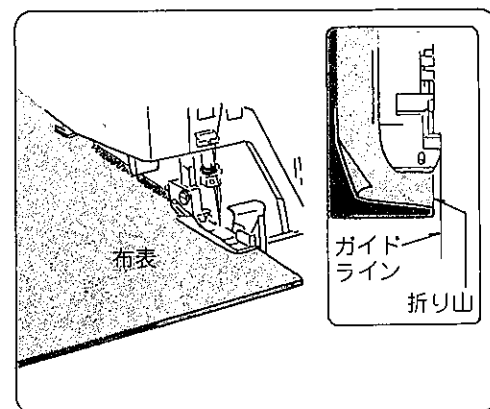


★布と糸の種類とミシンのセット

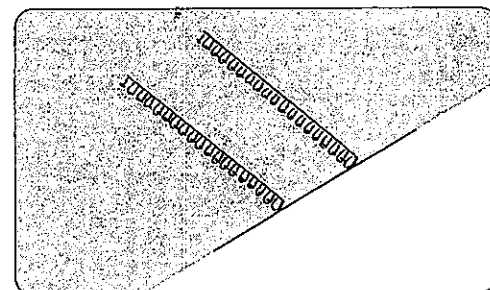
布	糸	
うすい布 ニット地	針 糸	化繊糸 60番～80番
	上ルーパー糸 下ルーパー糸	化繊糸 60番～100番
ミシンの セ ッ ト	粗さ調節 ダイヤル	2～3
	伸縮調節 ダイヤル	1.0
	針 板	標準針板(針板裏の刻印:S)
	針	HA-1ブルー針11番または14番

*糸調子の調節のし方は、26～27ページをごらんください。

★縫い方

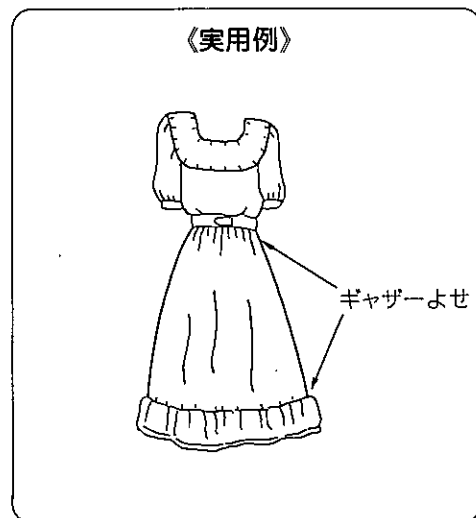


左側の針をはずしてください。
上メスを解除します。(31ページ参照)
折り山がガイドラインにそうようにして縫います。



布をひらいて、アイロンで山を片側に倒します。
上メスをもとにもどします。(31ページ参照)

●ギャザーよせ

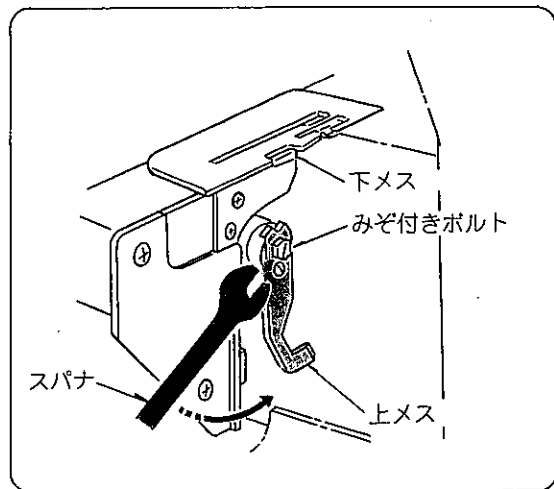


★布と糸の種類とミシンのセット

布	糸	
うすい布 普通の布	針 糸	化繊糸 60番～80番
	上ルーパー糸 下ルーパー糸	化繊糸 60番～80番
ミシンの セット	粗さ調節 ダイヤル	3～4
	伸縮調節 ダイヤル	1.0～2.0
	針 板	標準針板(針板裏の刻印：S)
	針	HA-1ブルー針11番または14番

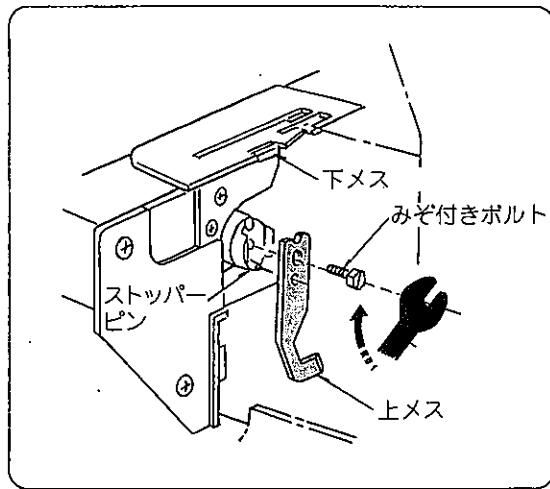
*糸調子の調節のし方は、26～27ページをごらんください。

●上メスの交換



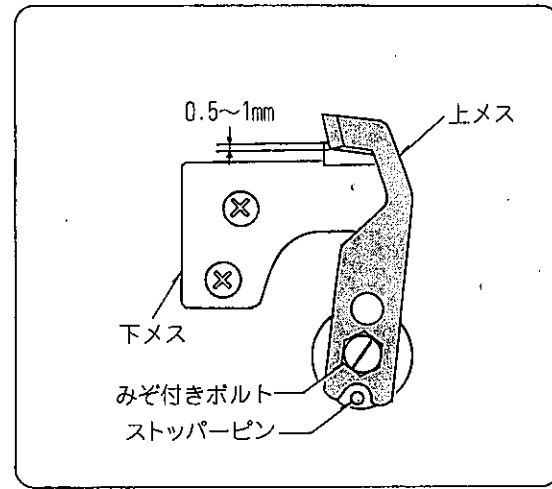
《取りはずし》

- ①電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜きます。
- ②ルーパーカバーと布板をひらきます。
- ③上メスを解除します。
(31ページ参照)
- ④みぞ付きボルトをスパナでゆるめ、上メスをはずします。



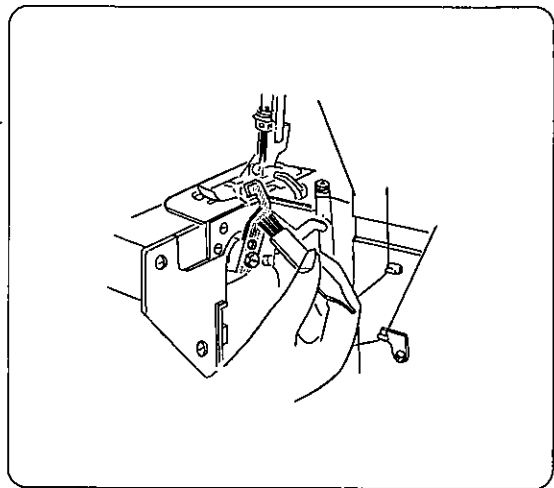
《取りつけ》

- ①上メスを、ストッパーピンとみぞにはめこんで、スパナでみぞ付きボルトを軽くしめます。



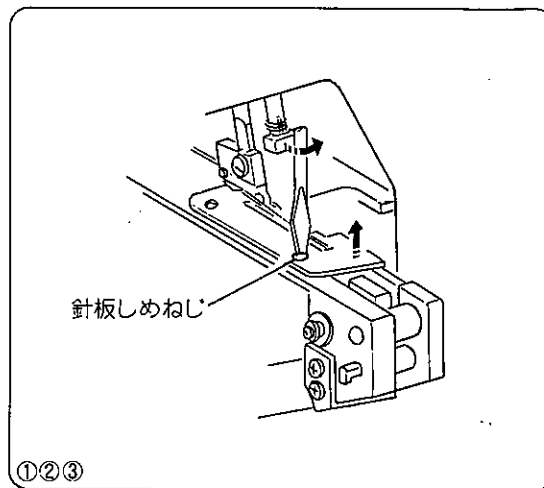
- ②上メスをもとの位置にもどします。
- ③はずみ車を手で回し、上メスが最もさがったとき、上メスと下メスとのかみ合いが0.5~1mmとなるように、上メスの位置を調節してみぞ付きボルトをスパナで、かたくしめます。
- ④ルーパーカバーと布板をしめます。

●切りくずの掃除

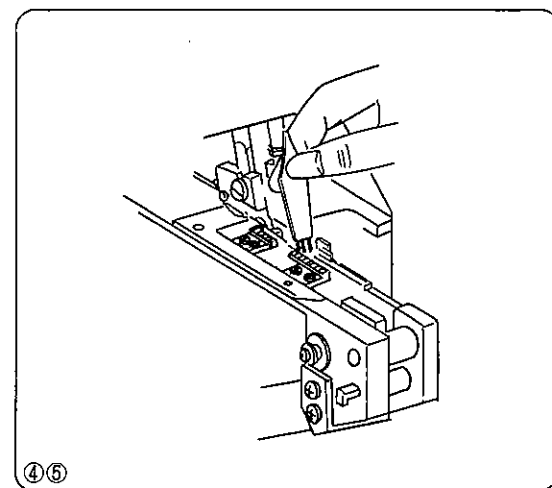


○ルーパーカバーをひらき、切りくずをブラシで取り除きます。

●送り歯の掃除



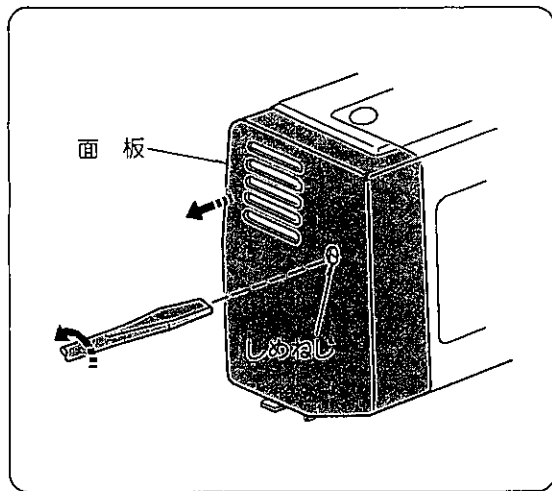
- ①ルーパーカバーと布板をひらきます。
②針と押えをはずします。
③針板しめねじをゆるめ、針板をはずします。



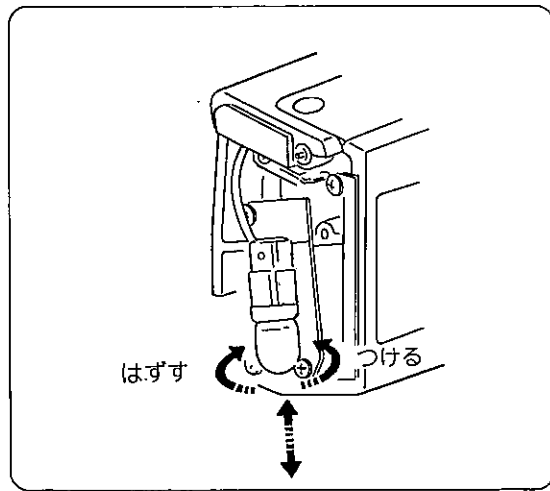
- ④送り歯のごみを、ブラシで落とします。
⑤針板、押え、針をとりつけ、ルーパーカバーと布板をしめます。

*ブラシで掃除しにくい切りくずや、ほこりは、電気掃除機などで吸い取ってください。

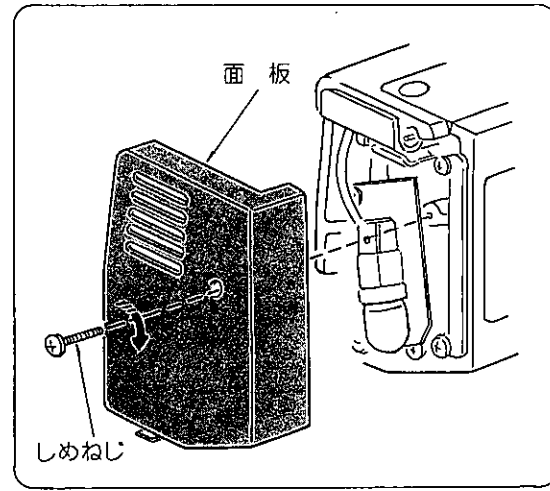
●電球のとりかえ方



①しめねじをゆるめ、面板をはずします。



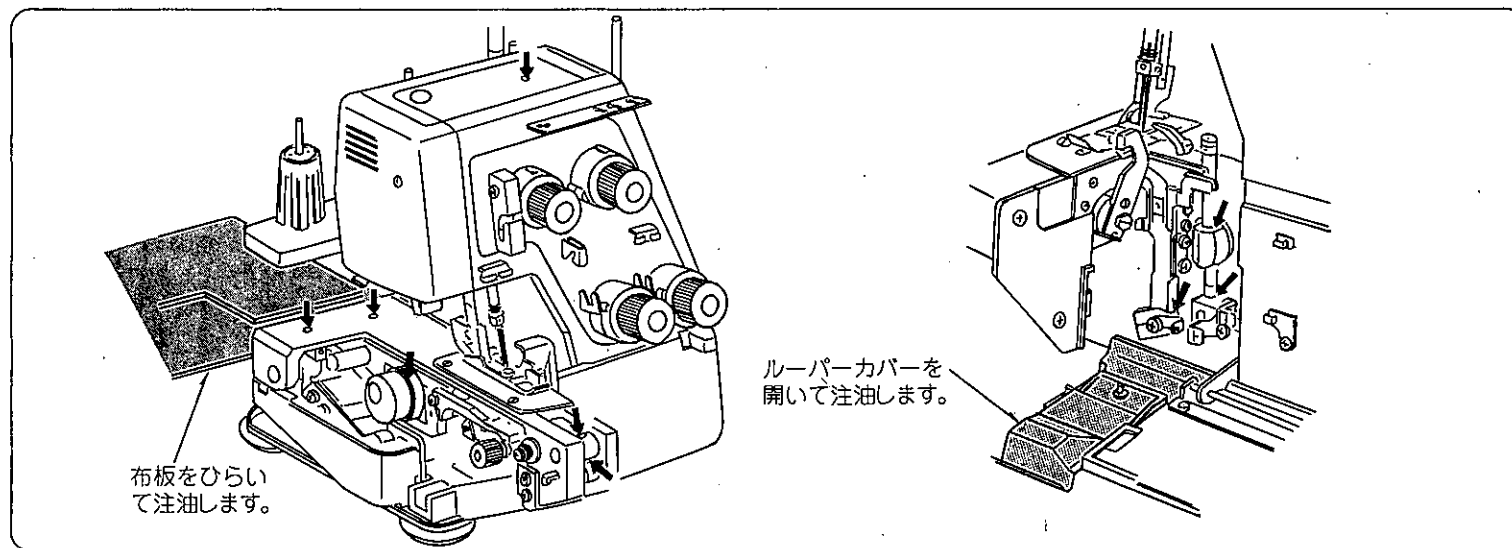
②電球をはずすとき……左に回します。
電球をつけるとき……右に回します。



③電球をとりかえおわったら、面板をとりつけます。

- *電球をとりかえるときは、電源プラグを抜いてから行ってください。
- *安全のため、電球を外した状態でミシンを使用しないでください。
- *電球（照明用100V-12W）は、ジャノメミシン直営支店で求めください。

●注油の仕方



矢印の個所に良質のミシン油を1～2滴注油し、注油後ミシンを1～2分ほど押え上げをあげて、回転させて、よく油をしみこませます。

一般家庭では1週間に1度、継続して使用するときは、10時間に1回くらい。また、しばらく使用しなかったときは、使う前に一通り注油してください。

●調子がよくないときの直し方

調子がよくない状態	原因	直し方
布地を送らない。	①押えがあがっている。	押えをおろす。
針が折れる。	①針のつけ方がまちがっている。 ②針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ③布地を無理に引っばった。	9ページ参照 9ページ参照 縫う時は軽く引く程度にする。
糸が切れる。	①糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 ②糸調子が強すぎる。 ③針のつけ方がまちがっている。 ④針がまがっていたり、針先がつぶれている。	11～19ページ参照 23～27、34～36ページ参照 9ページ参照 9ページ参照
縫い目がとぶ。	①針のつけ方がまちがっている。 ②針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ③糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。	9ページ参照 9ページ参照 11～19ページ参照
縫い目の調子が悪い。	①糸調子が強すぎるか、弱すぎる。 ②糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 ③針と糸が布に対して合っていない。 ④糸調子皿に、糸がきちんと入っていない。	23～27、34～36ページ参照 11～19ページ参照 28、34、36～38ページ参照 13、15、16、19ページ参照
縫い目がしわになる。	①糸調子が強すぎる。 ②糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 ③用途に合った針板を使用していない。 ④伸縮調節ダイヤルのセットが合っていない。	23～27、34～36ページ参照 11～19ページ参照 32ページ参照 29～30ページ参照
ミシンがまわらない。	①コンセントにプラグがきちんとさしこまれていない。 ②電源スイッチがOFFになっている。	6ページ参照 ONにする。
布地の切れ味が悪い。	①メスのかみ合いがわるい。 ②刃先が摩耗している。	39ページ参照 上メスを交換する。

仕		様	
使用電圧	100V 50/60Hz	縫速度	毎分1300回転
消費電力	115W/ランプ12W	使用針	家庭用 HA×1 SP針11番・14番
外形寸法	幅33cm×奥行26cm×高さ27cm	縫い目のあらかさ	1~4mm
重量	7.4kg (本体)	かがり幅	3.5mm又は5.7mm

仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承下さい。

お客様相談コーナー

- ★ ジャノメマシンでは全国350近くの直営支店で万全のアフターサービスをしております。この手びきに書かれている方法で直らないときは、最寄りの支店へご連絡ください。
- ★ お問合わせの際は、この手びきをお読みになりながらお電話くださると係員も故障の原因や個所がわかって便利です。
- ★ アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、本社お客様相談室または、下記の代表支店へ何なりとお申しつけください。

本社・お客様相談室 ☎03(3277)2315

〒104 東京都中央区京橋3-1-1

札幌支店 ☎011(261)5671
〒060 札幌市中央区南二条西2丁目NSビル

京都支店 ☎075(211)9132
〒605 京都市中京区丸太町通烏丸東入光り堂町420
京都インペリアルビル

仙台支店 ☎022(221)3591
〒980 仙台市青葉区国分町3-5-32

広島支店 ☎082(228)5181
〒730 広島市中区幟町15-9

新潟支店 ☎025(228)6201
〒950 新潟市寄居町343-17

高松支店 ☎0878(31)1721
〒760 高松市常磐町1-4-10

名古屋支店 ☎052(733)5116
〒464 名古屋市千種区内山3-33-14

福岡西新支店 ☎092(846)7930
〒814 福岡市早良区西新2-6-2

大阪支店 ☎06(213)1635
〒542 大阪市中央区心斎橋筋2-6-9

熊本支店 ☎096(354)6523
〒860 熊本市上通り町8-15

* 上記の電話番号および住所は、都合により変更することがありますのでご了承ください。

ジャノメマシン

東京都中央区京橋3-1-1 蛇の目マシン工業(株)